

**2023年度
在学学生学修成果等
アンケート**

**実施レポート
(学部・大学院)**

2023年9月25日

担当：教務課

1. アンケート実施について

(1) アンケート実施時期

2023年7月19日～8月8日

(2) 回答人数

合計 639 名 学部生:634 名 大学院:5 名
全学生 1,835 名中 639 名(34.8%)

(3) アンケート項目

■在学学生学修成果等アンケート項目	■分類	■対応 DP
1. 主体的に学ぶ力	学修成果	DP①
2. 専門分野の知識	//	DP②
3. 外国語能力	//	DP③
4. 日本語・数学などの基礎能力	//	DP②+DP⑥
5. コミュニケーション能力	//	DP④
6. プレゼンテーション能力	//	DP④
7. 地域や社会に貢献する意識	//	DP⑥
8. 情報収集・活用力	//	DP⑤
9. 問題発見能力・課題解決能力	//	DP⑤
10. 幅広い教養	//	DP⑥
11. 論理的思考	//	DP⑤+DP⑥
12. 予約・復習・課題などは主にどこで行っていますか	学修時間, 行動	
13. 授業外時間の学習時間	//	
14. アルバイト・サークス活動時間	//	
15. GPA 意識	//	
16. 学修相談相手	//	
17. 授業を休む理由	//	
18. 大学の学びによる成長について	大学について	
19. 教員が学生と向き合って教育に取り組んでいるか	//	
20. 北海道情報大学を母校に薦めたいか	//	
21. カリキュラム(教育内容)に満足しているか	//	
22. 大学に満足しているか	//	

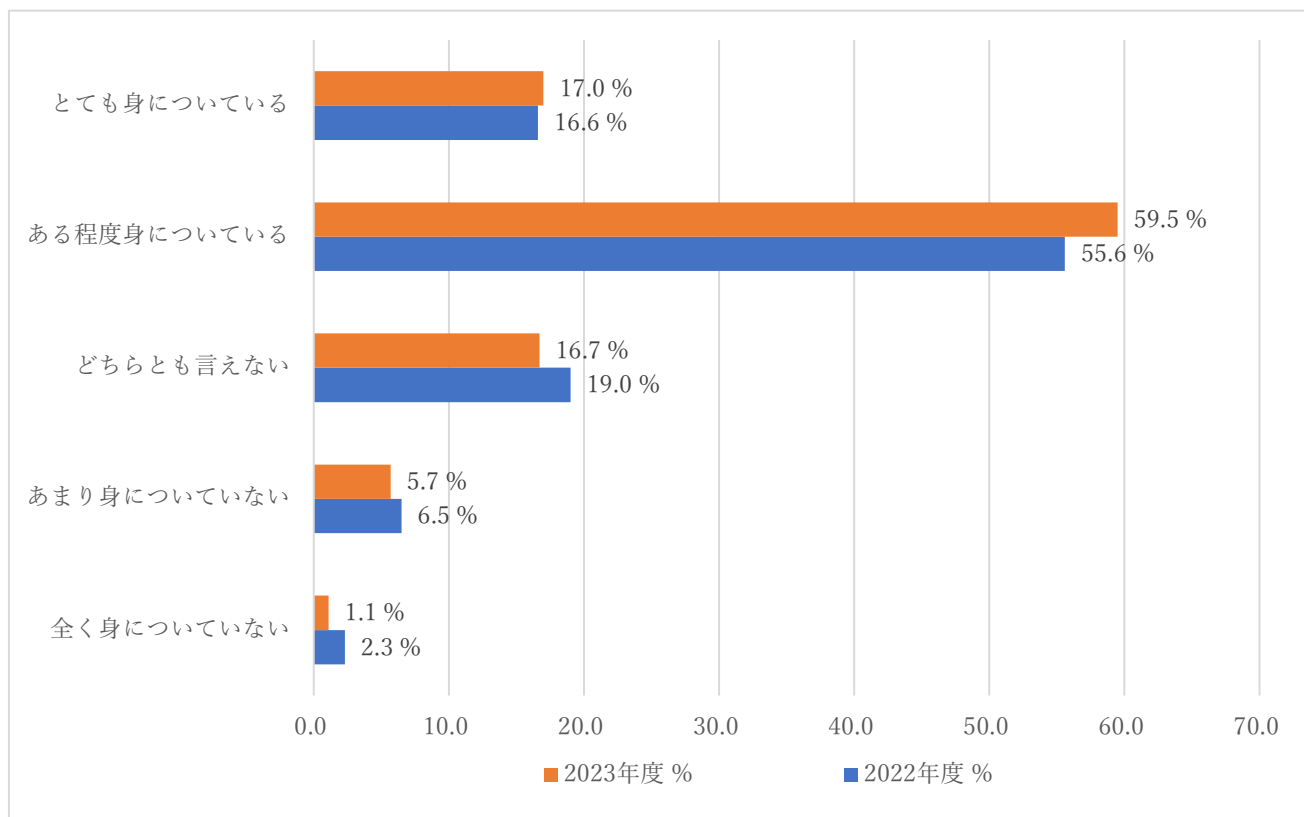
(4) アンケート周知方法

- ・Web ポータルに掲示(複数回にわたる周知)。
- ・メールでの周知:全 8 回。
(7月19日、7月21日、7月27日、8月1日、8月2日、8月3日、8月4日、8月7日に実施)
- ・デジタルサイネージを使用した掲示
- ・学生へ直接声掛け
- ・教員への周知支援要請(メール)
- ・ポスター掲示

2. アンケート回答結果

1. 主体的に学ぶ力

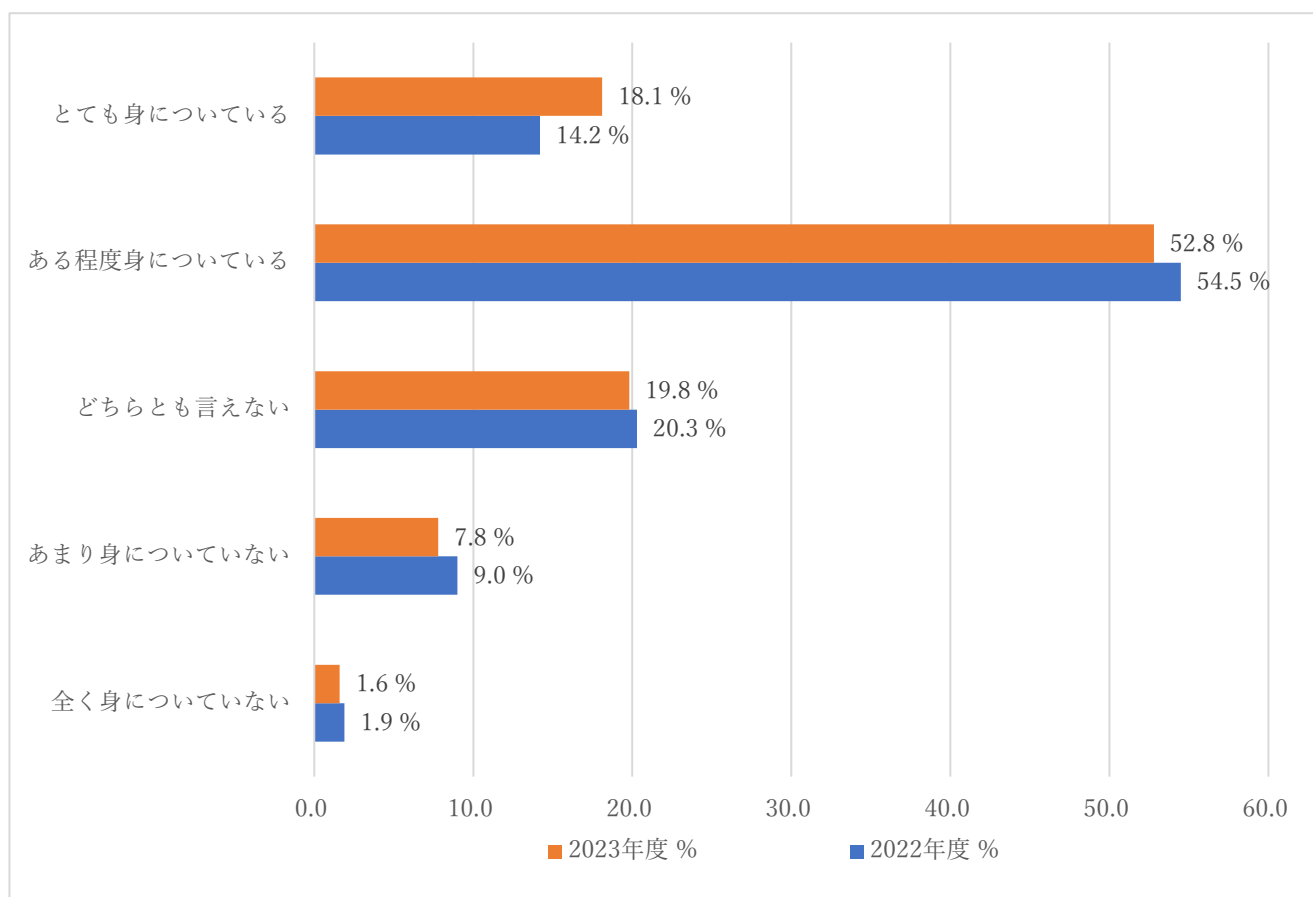
※必要と感じれば自ら行動し学ぶ(調べる、聞く、理解しようとする)



【コメント】

76.5%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力』は身に付いていると考える。2022 年度(72.2%)との比較では主体的に学ぶ力が身に付いたと回答した割合が増えている。

2. 専門分野の知識

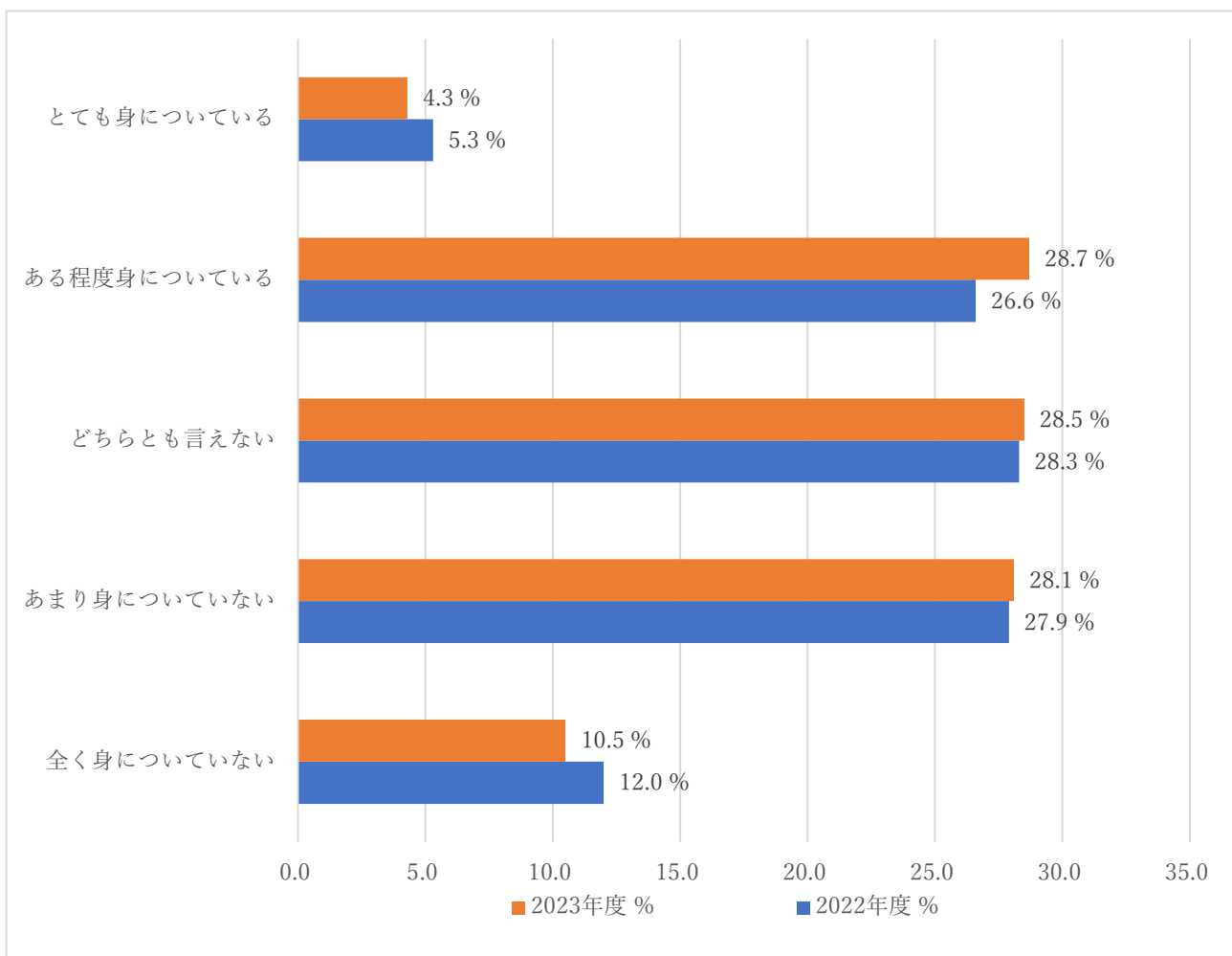


【コメント】

70.9%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識』は身に付いていると判断する。2022 年度(68.7%)との比較でも専門分野の知識が身に付いたと回答した割合が増えている。

3. 外国語能力

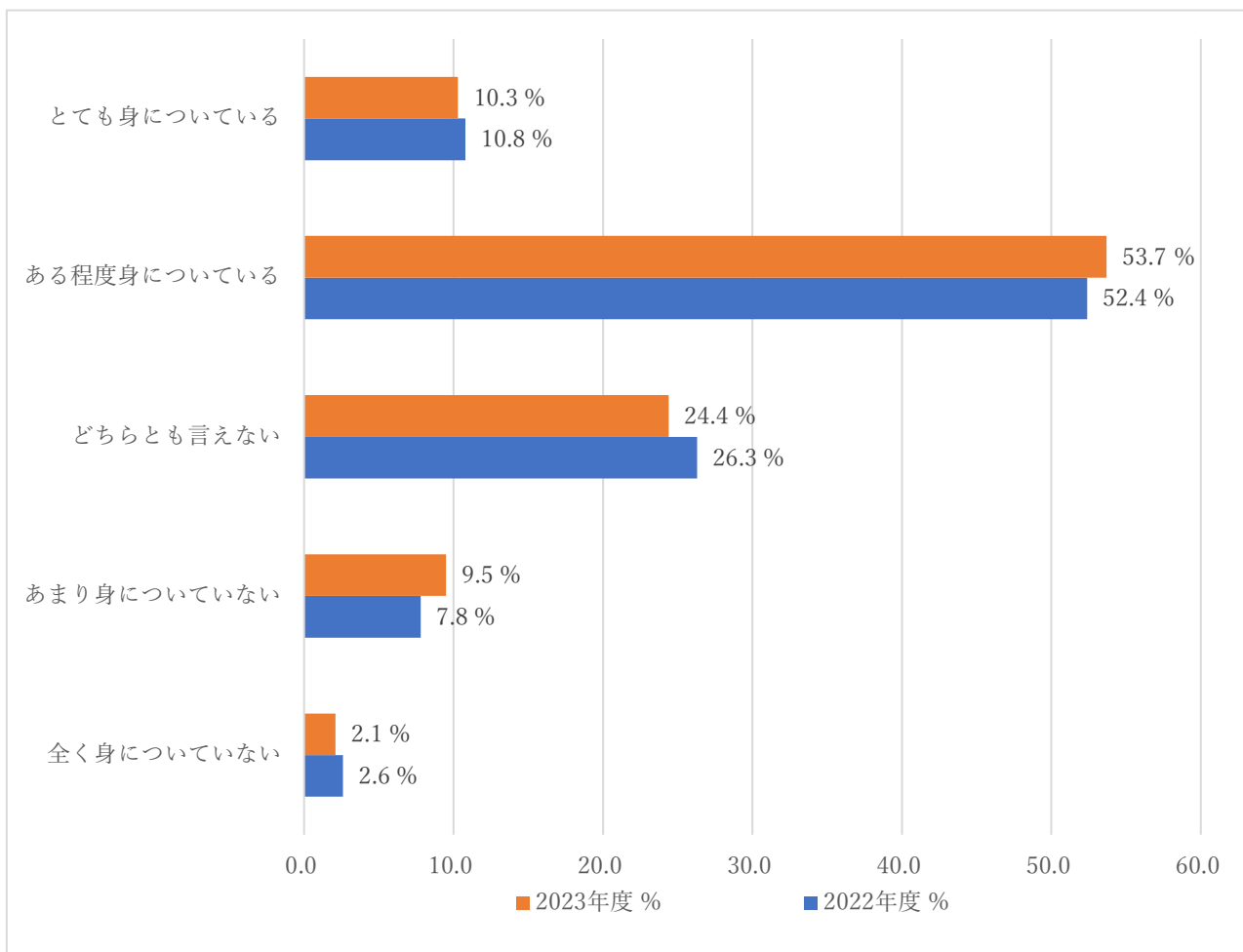
※英語を読む、聞く、書く、会話する



【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身につけていない」とした学生が 67.1%と多い。2022 年度 (68.2%)との比較では若干改善されたといえる。DPの『国際感覚やモラルなど豊かな人間性』に向けて、引き続き外国語(特に英語)能力を向上させる授業内容を検討する必要がある。

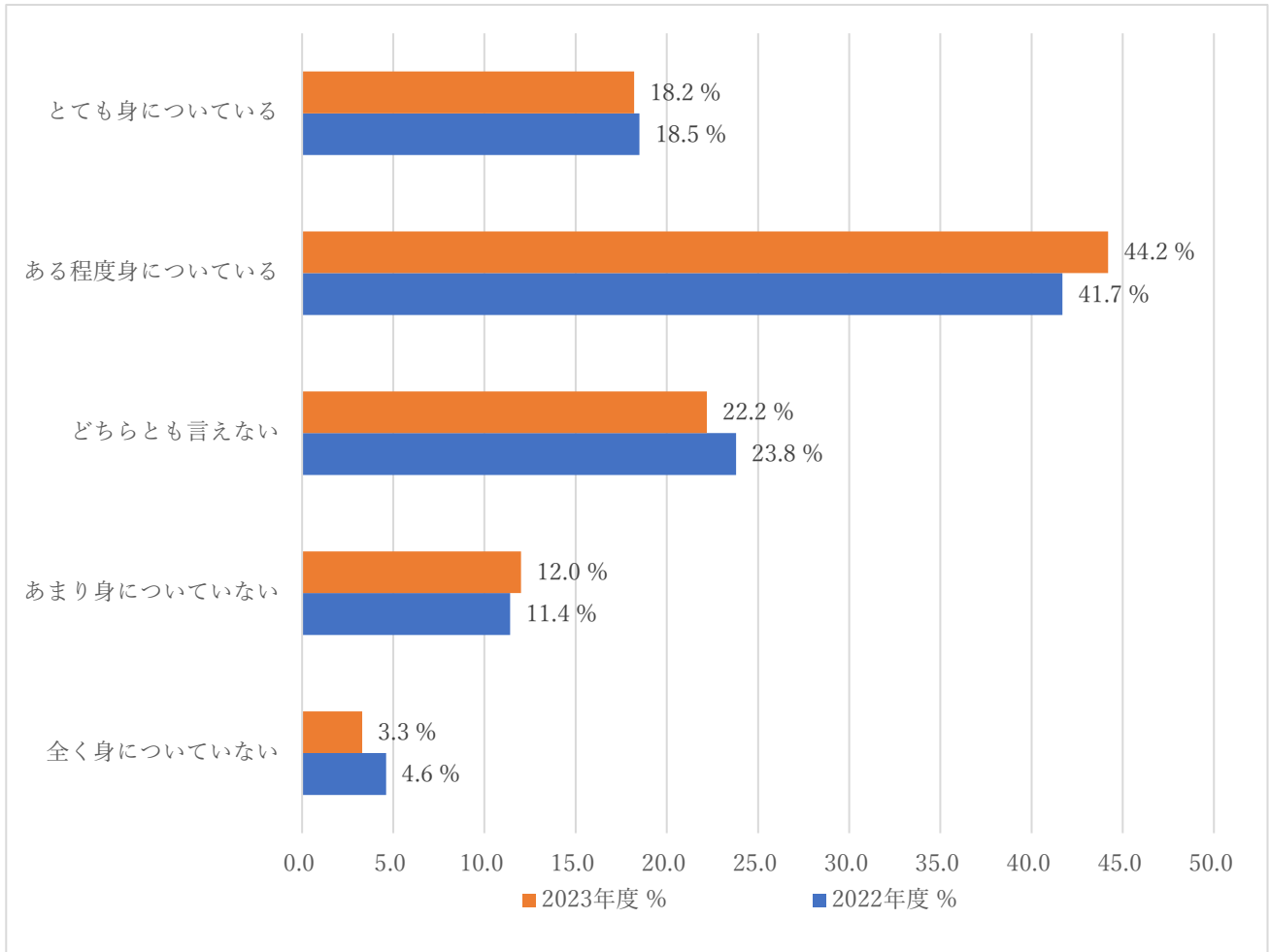
4. 日本語・数学などの基礎能力



【コメント】

64.0%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』が身に付いていると判断する。なお、2022 年度(63.2%)との比較では大きな変化はないが、引き続き身に付いた比率を上げる方策が必要。

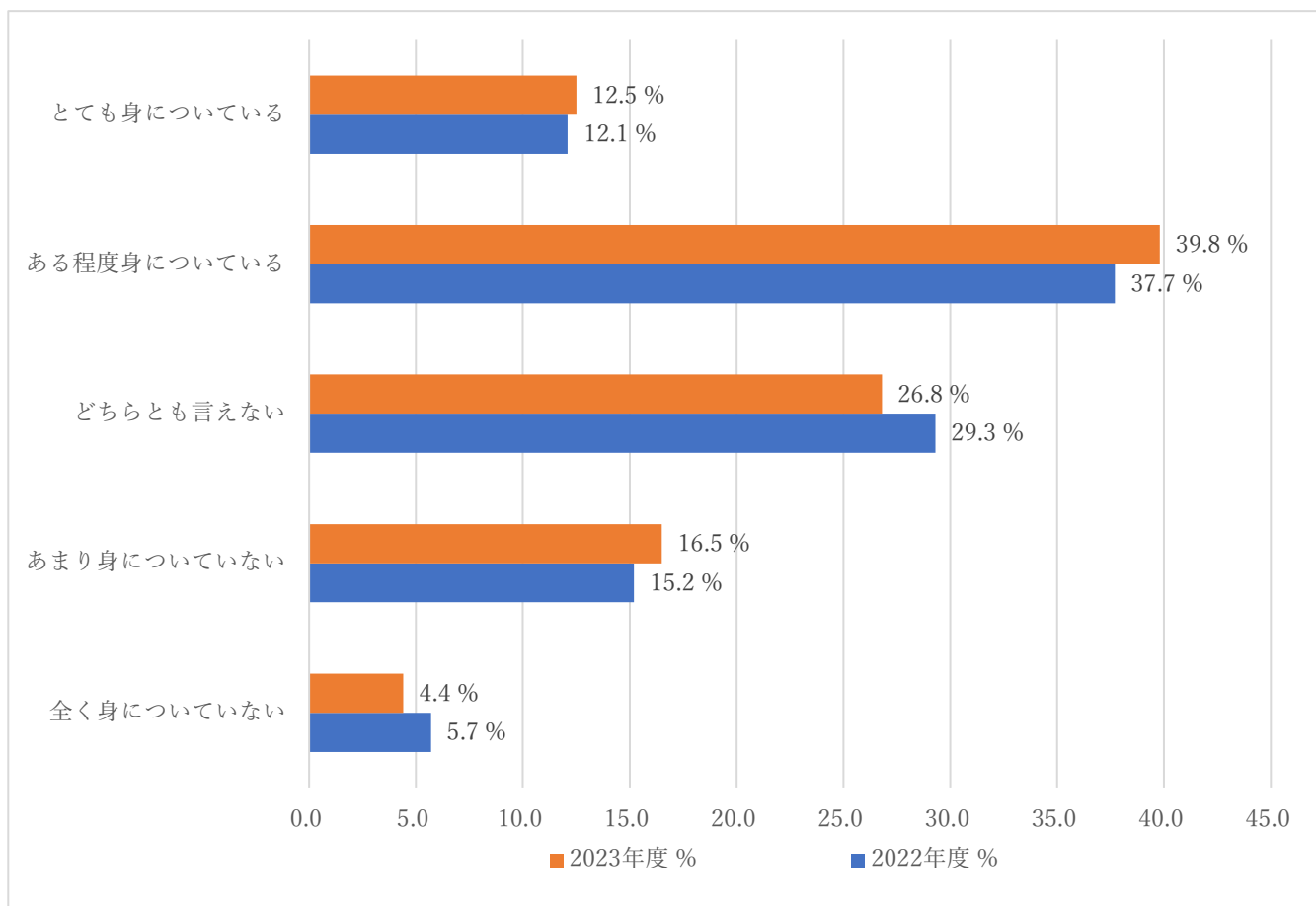
5. コミュニケーション能力



【コメント】

62.4%が「とても・ある程度身につけている」と回答しており、DPの『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』が身に付いていると判断する。授業に関わらず学生間コミュニケーション、教職員とのコミュニケーションの機会・場所を増やすことが重要と思われる。2022年度(60.2%)との比較でも大きな変化はないが、就職においてコミュニケーション能力が重要視されていることから身に付いている割合を増やす方策が必要。

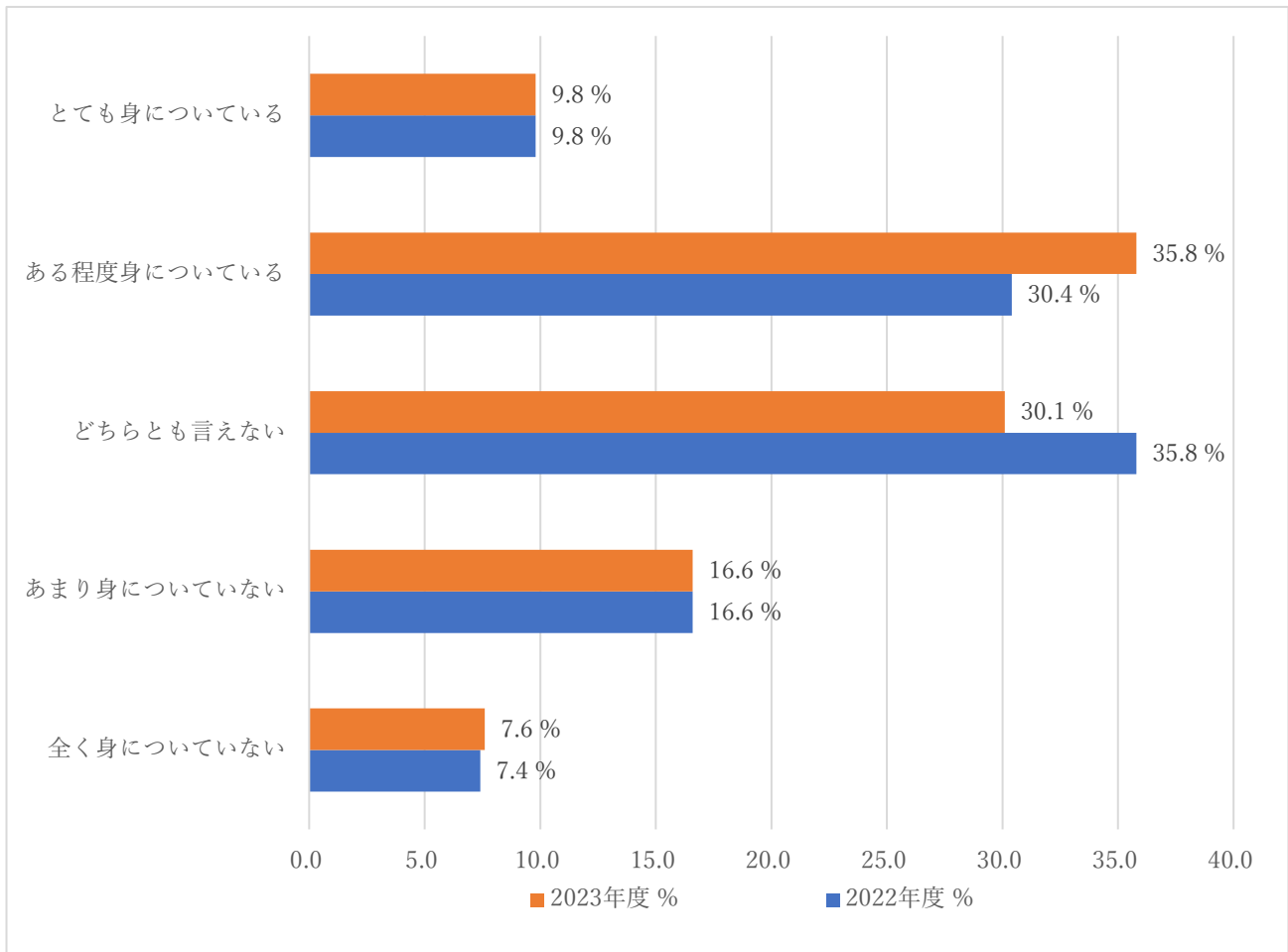
6. プレゼンテーション能力



【コメント】

「とても・ある程度身につけている」と回答した学生が 52.3%と半数を超えており、DP の『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』については身に付いていると判断するが、身に付いている割合を増やすため、引き続き授業にプレゼンテーション実践および適時フィードバックする等の機会を多く与えることが必要である。なお、2022 年度(49.8%)との比較では僅かに改善している。

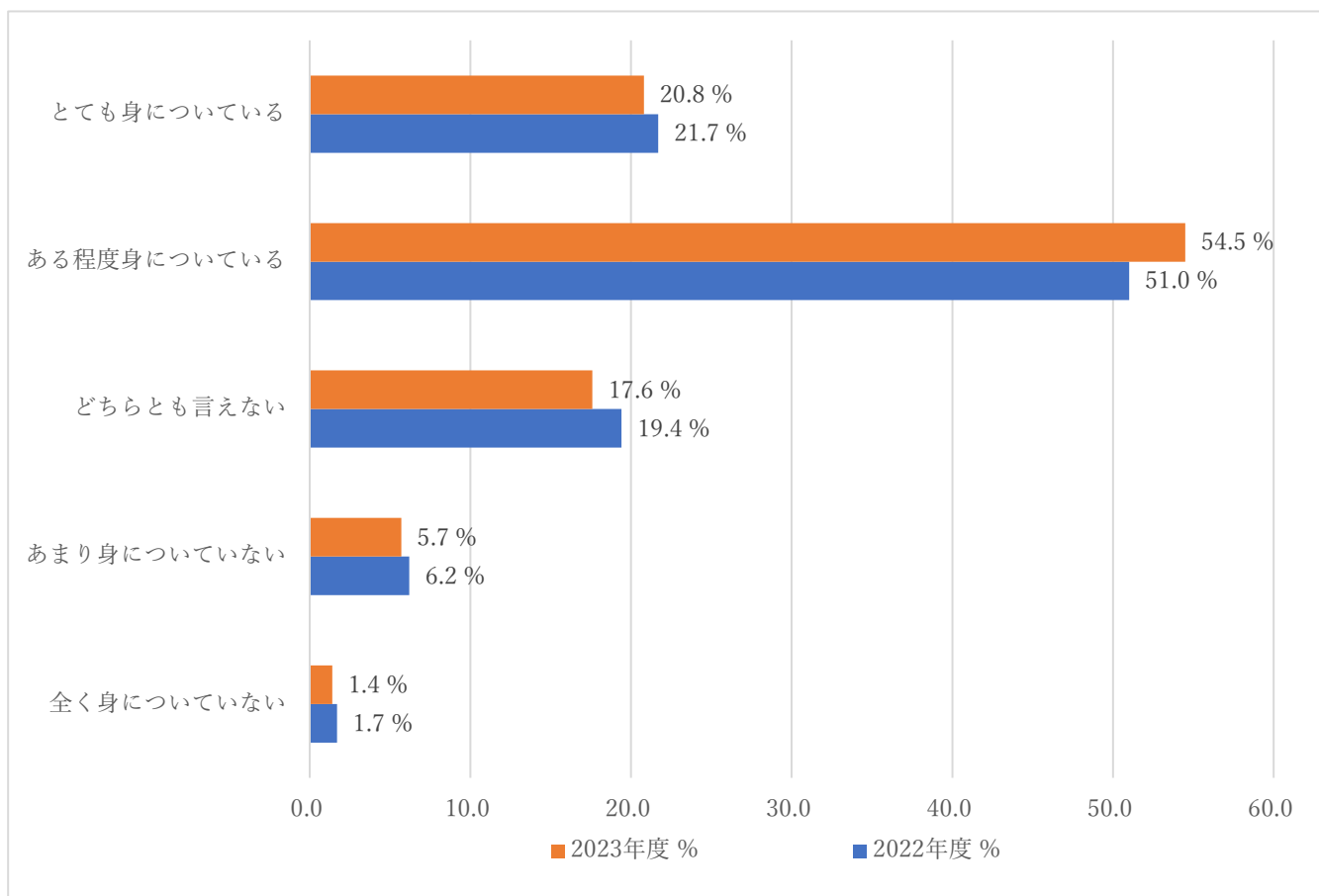
7. 地域や社会に貢献する意識



【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 54.3%と半数を超えている。2022年度(59.8%)との比較では改善されつつあるが、引き続き DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』に向けて、更なる世界・社会情勢の知識習得と地域の課題・解決・応用の実地体験を通じた意識作りが必要と考える。「何のために何を学ぶのか」、「これを学べば何ができるのか」等、学びと地域・社会貢献の結びつきについて丁寧な説明が求められる。

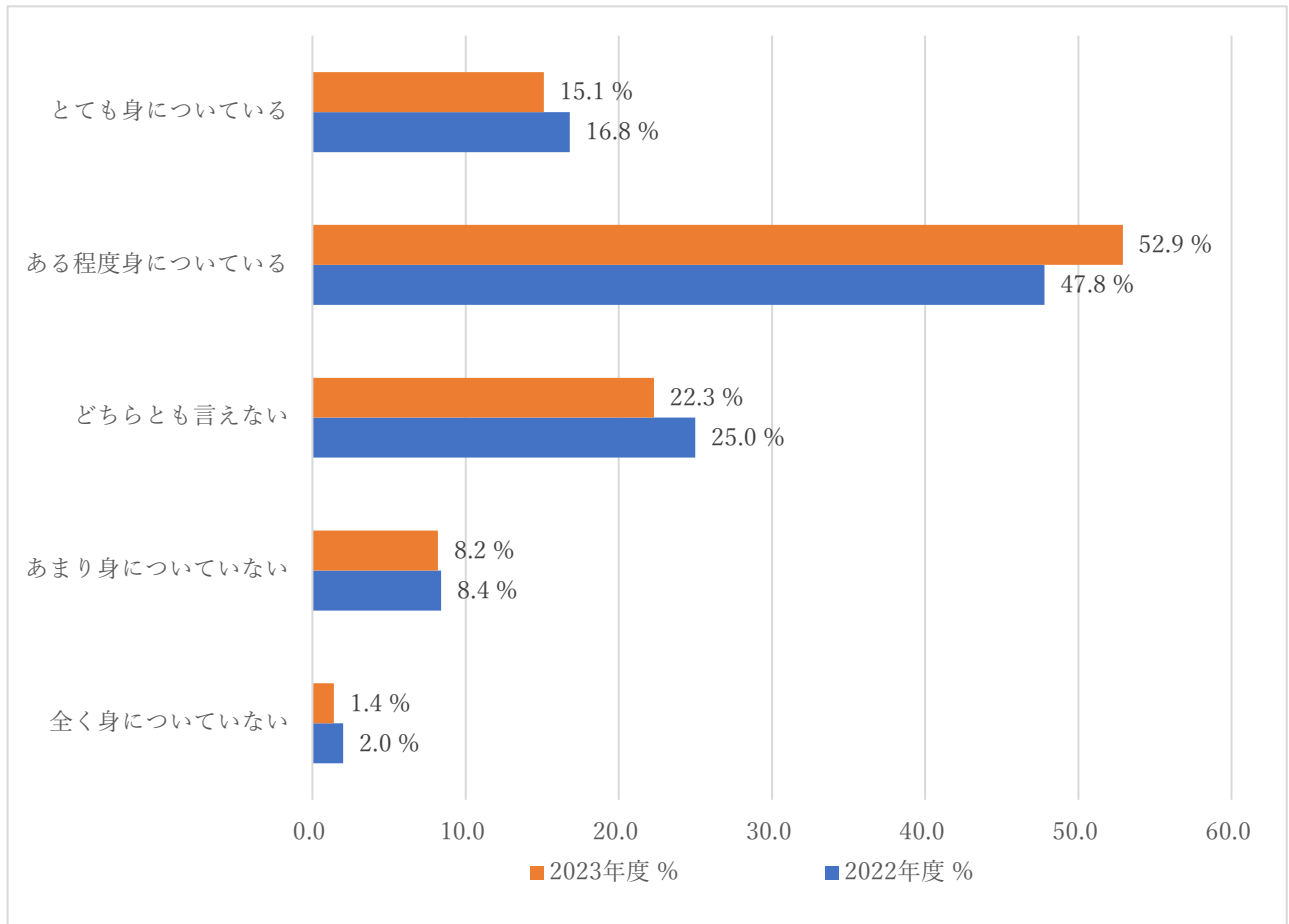
8. 情報収集・活用力



【コメント】

75.3%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』は身に付けていると判断する。2022 年度(72.7%)との比較では大きな変化はない。

9. 問題発見能力・課題解決能力

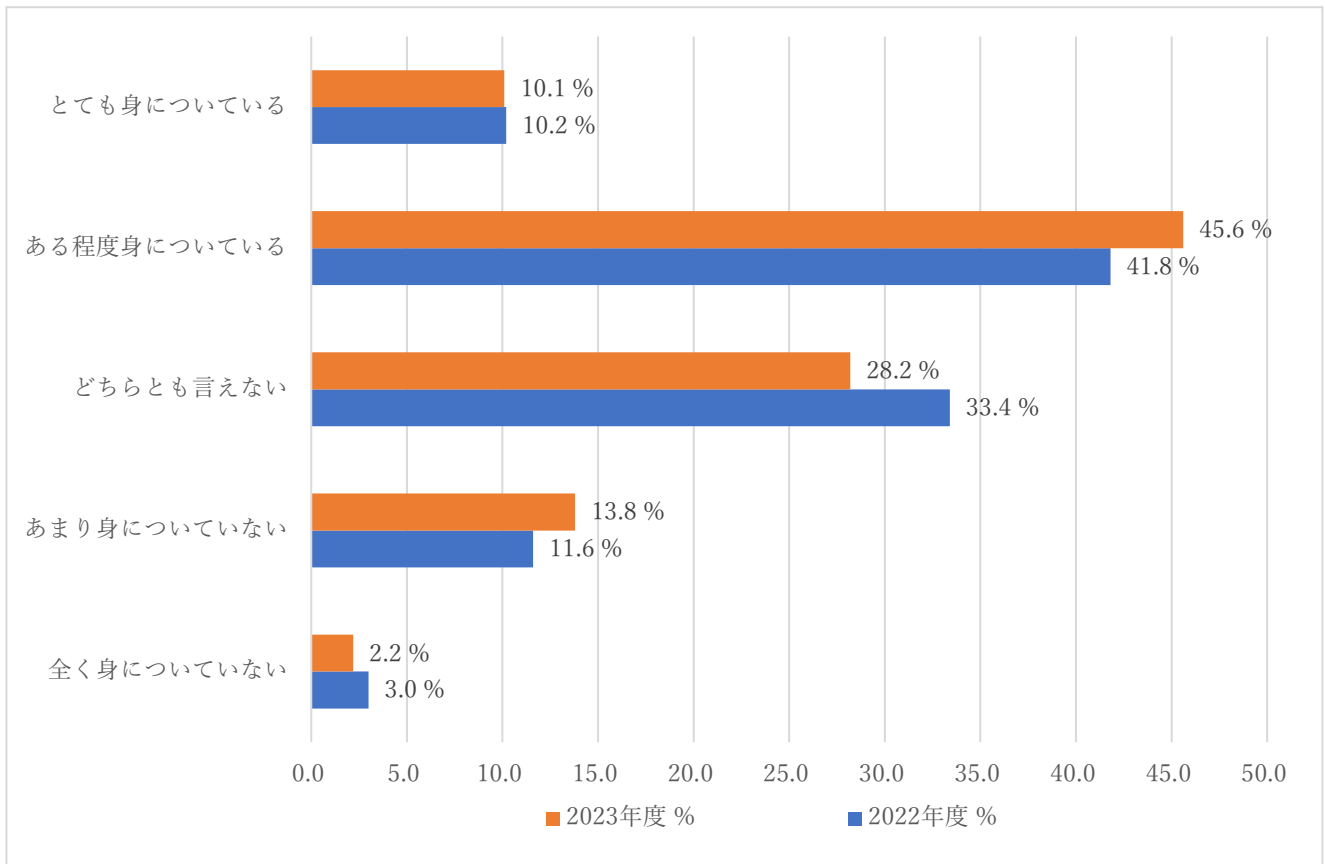


【コメント】

68.0%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』を身に付けていると判断する。2022年(64.6%)との比較でも身に付いていると回答した割合が増えている。

10. 幅広い教養

※文化的な幅広い知識

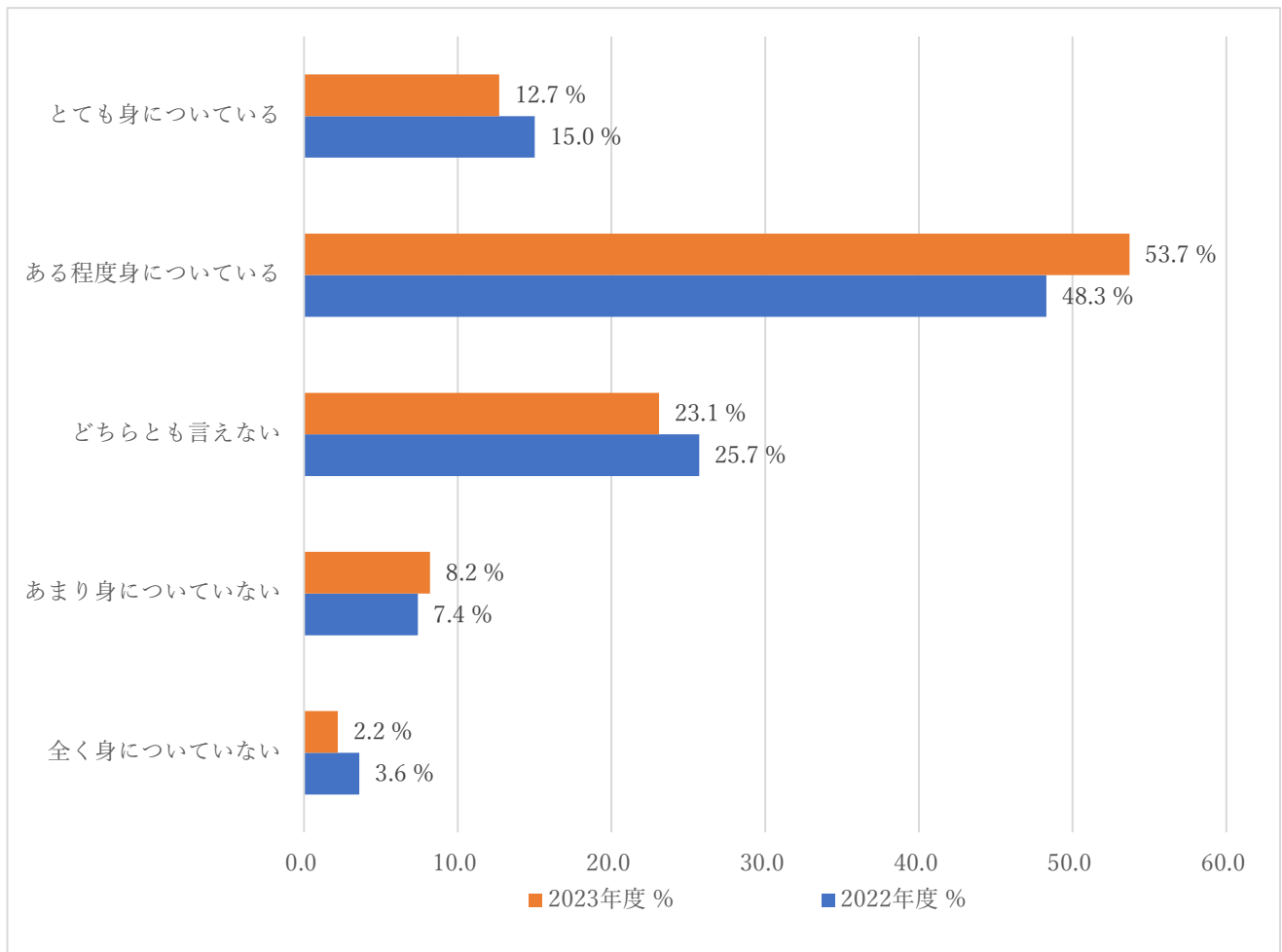


【コメント】

55.7%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。ただし、割合としては低く、引き続き改善に向けた方策が必要。2022年(52.0%)からは若干改善されている。

11. 論理的思考

※物事を筋道(計画)立てて考える力

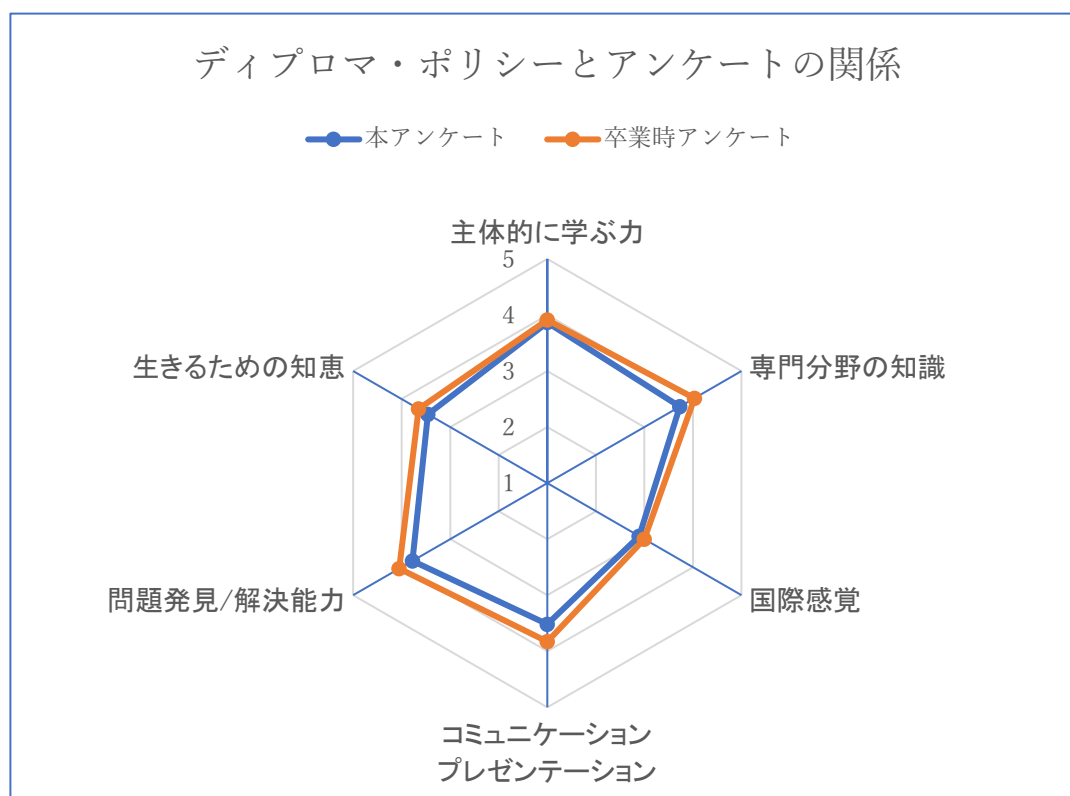


【コメント】

66.4%が「ある程度・とても身につけている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。2022年(63.3%)から若干改善されている。

3. アンケートからみる3つのポリシーを踏まえた適切性

学修成果アンケートのうち、ディプロマ・ポリシー(DP)記載の能力が身につけたレベル(5段階)に関するアンケート(11問)について分析した結果を示す。分析においては、アンケート回答(身についたレベル)に応じて1~5点を付与し、各 DP のスコアを関連する問の平均点の加重平均により求めた(図1)。

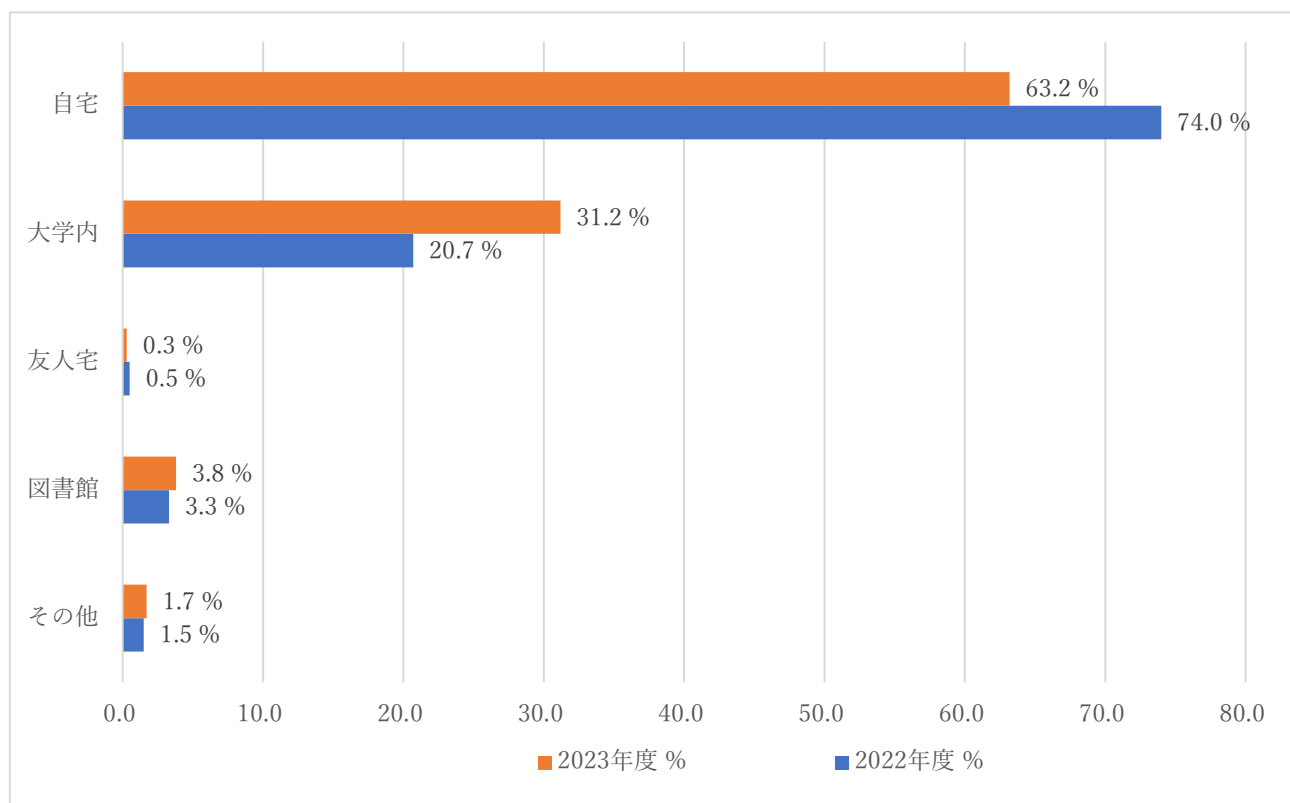


DP3(国際感覚)のスコアは 2.89(昨年:2.85)と低く、1つのレベルで表現すれば「どちらとも言えない」と学生が感じ、他の DP については 3.4 以上であることから、「ある程度以上身につけている」と感じる学生が多いことがわかった。

このことからディプロマに関する能力を身につけるためのカリキュラム・ポリシーは DP3 に関するものを除いて適切であると考えられる。また、アドミッション・ポリシーについても同様に DP3 を達成すること以外については問題ないといえる。

この結果を受け、DP3 に関わる英語教育について見直しを行い、学生にとって能力が身についたと感じられるよう改善を図ることを提言する。

12. 予習・復習・課題などは主にどこで行なっていますか

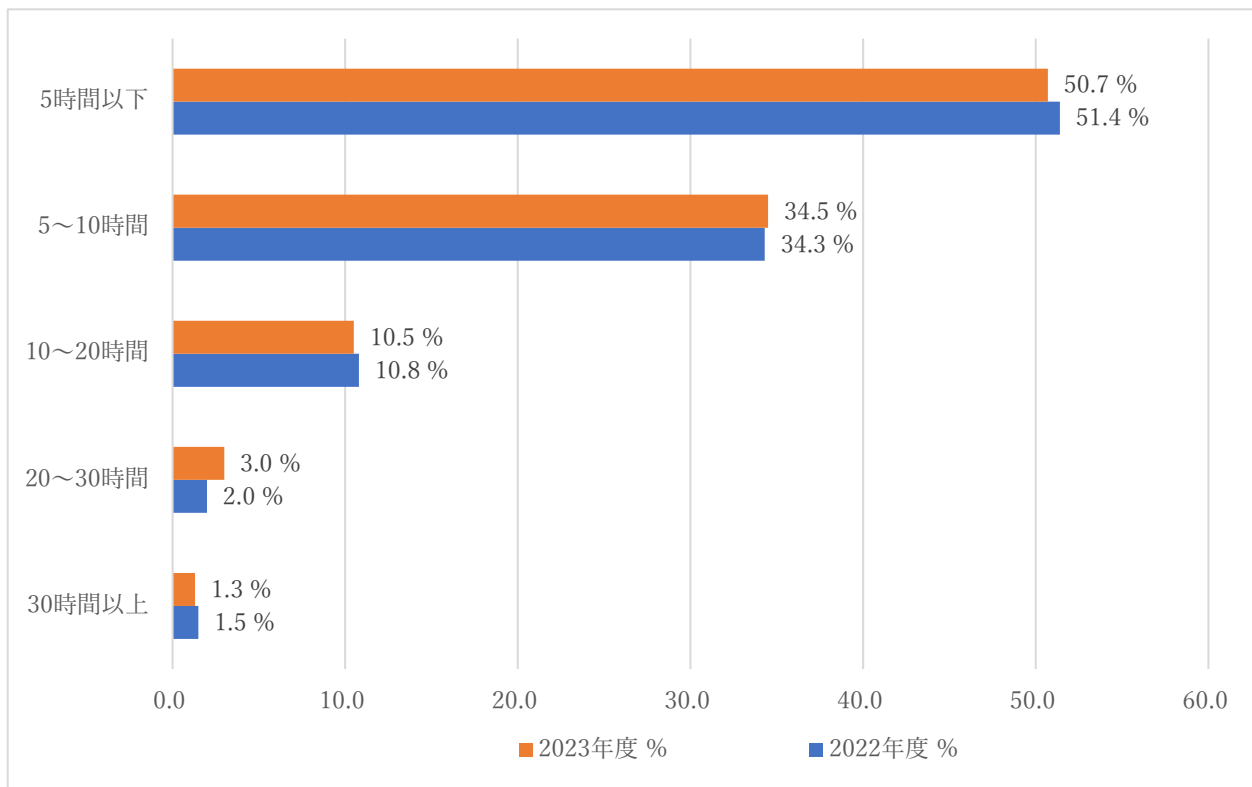


【コメント】

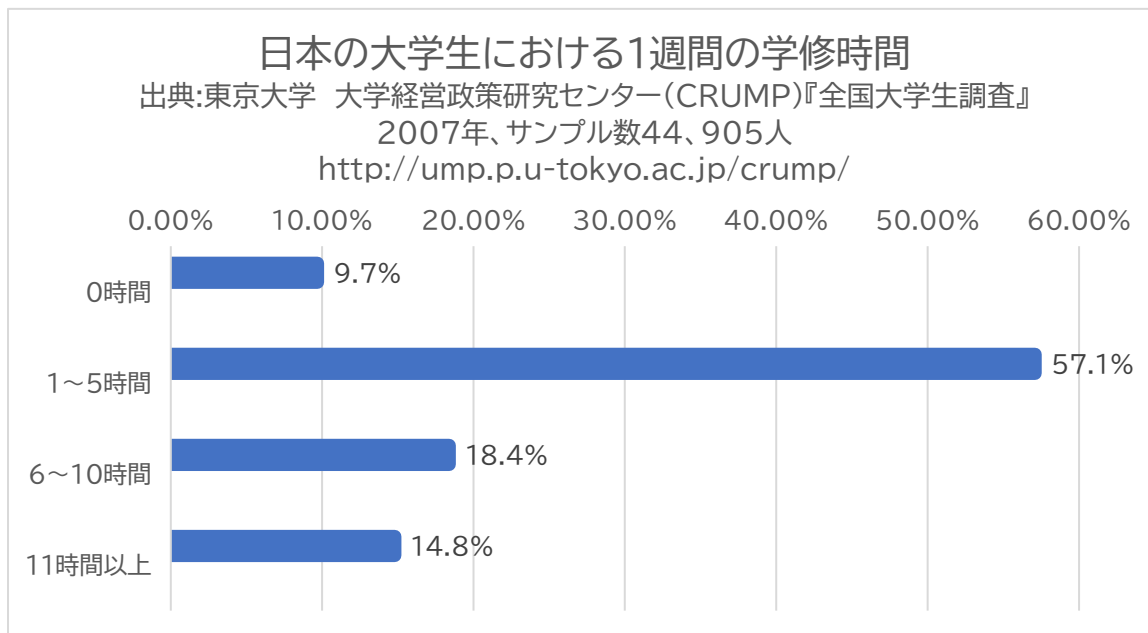
63.2%と多くの学生が自宅で学修していることが分かる。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことから学内施設も大幅に開放された影響もあって大学内で予習・復習・課題の対応を行う割合が増えている(20.7%→31.2%)。

13. 授業時間外(時間割登録外)での1週間の学習時間を教えてください(ゼミ活動,予習・復習を含む)



(参考資料)日本全体の大学生の1週間の学修時間

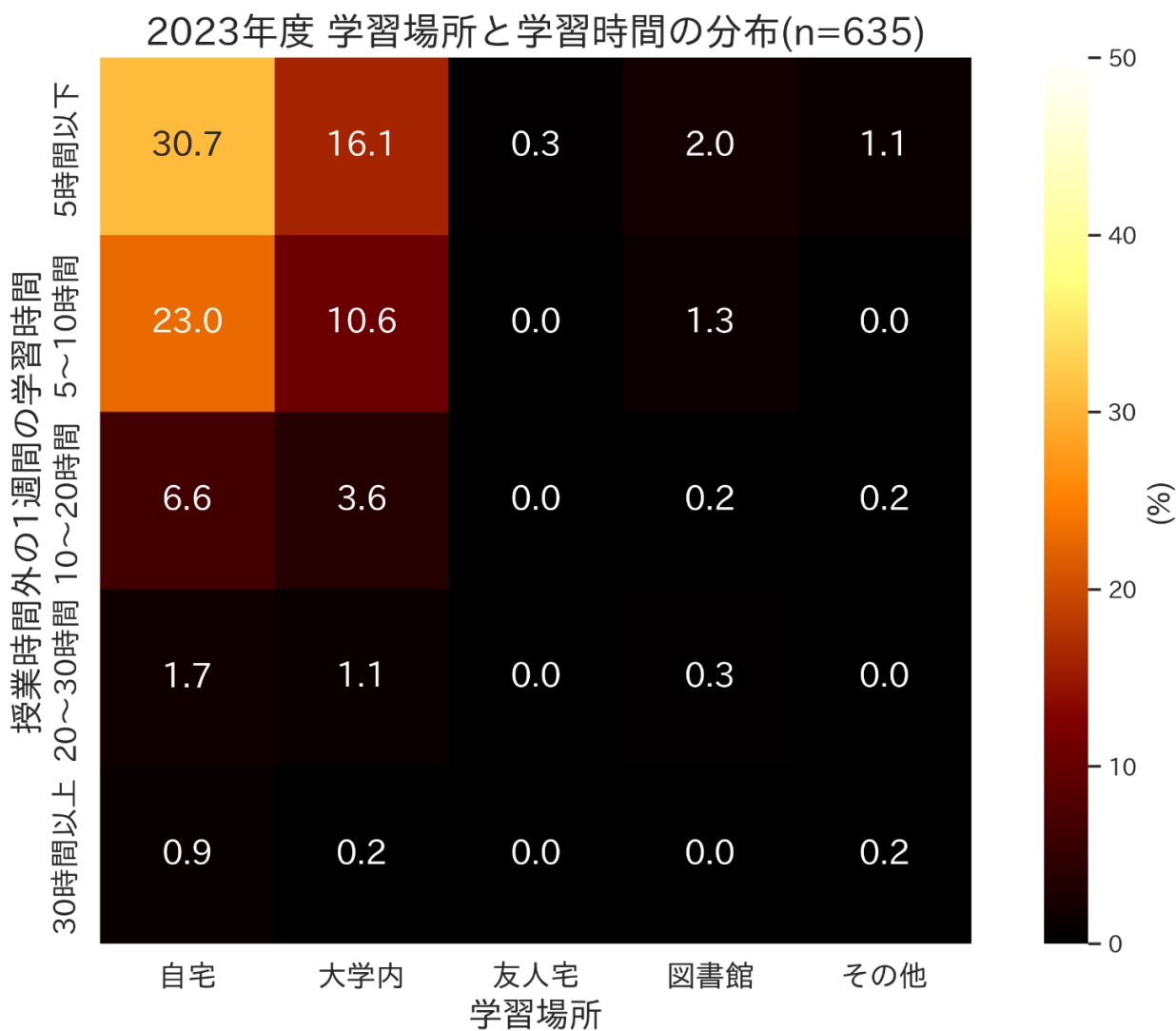


【コメント】

学修時間は日本全体の大学生と比べても平均的であるといえる。

※IR分析(①)を併せて参照

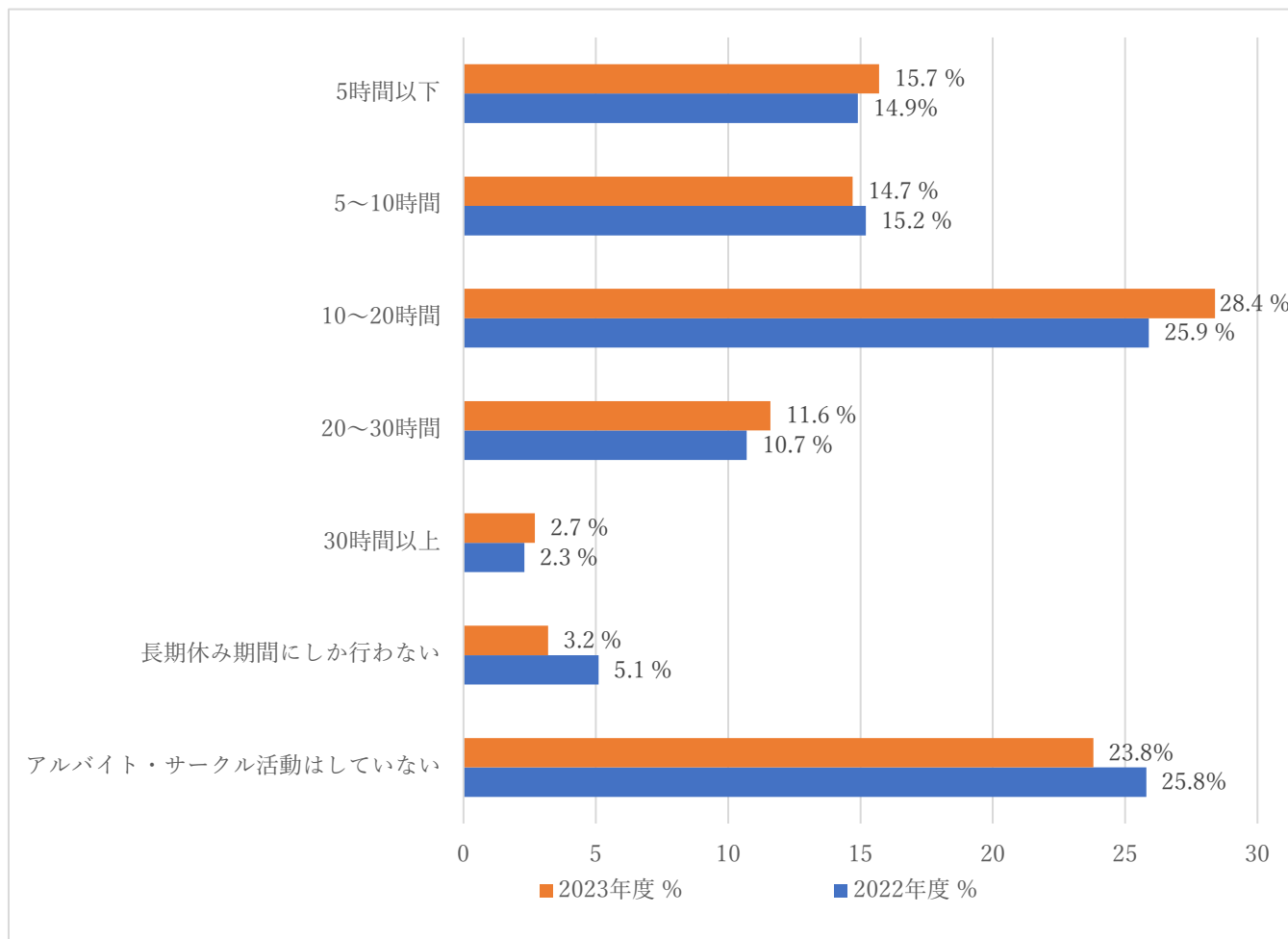
◆IR分析(①)



図①:2023 年度 学修場所と学習時間の分布

自宅での学習が大勢を占めており、学習時間が長くなるにつれて、人数は減少する。それ以外の場所(大学や図書館)においても、傾向は同じである。

14. アルバイト・サークルでの1週間の活動時間を教えてください

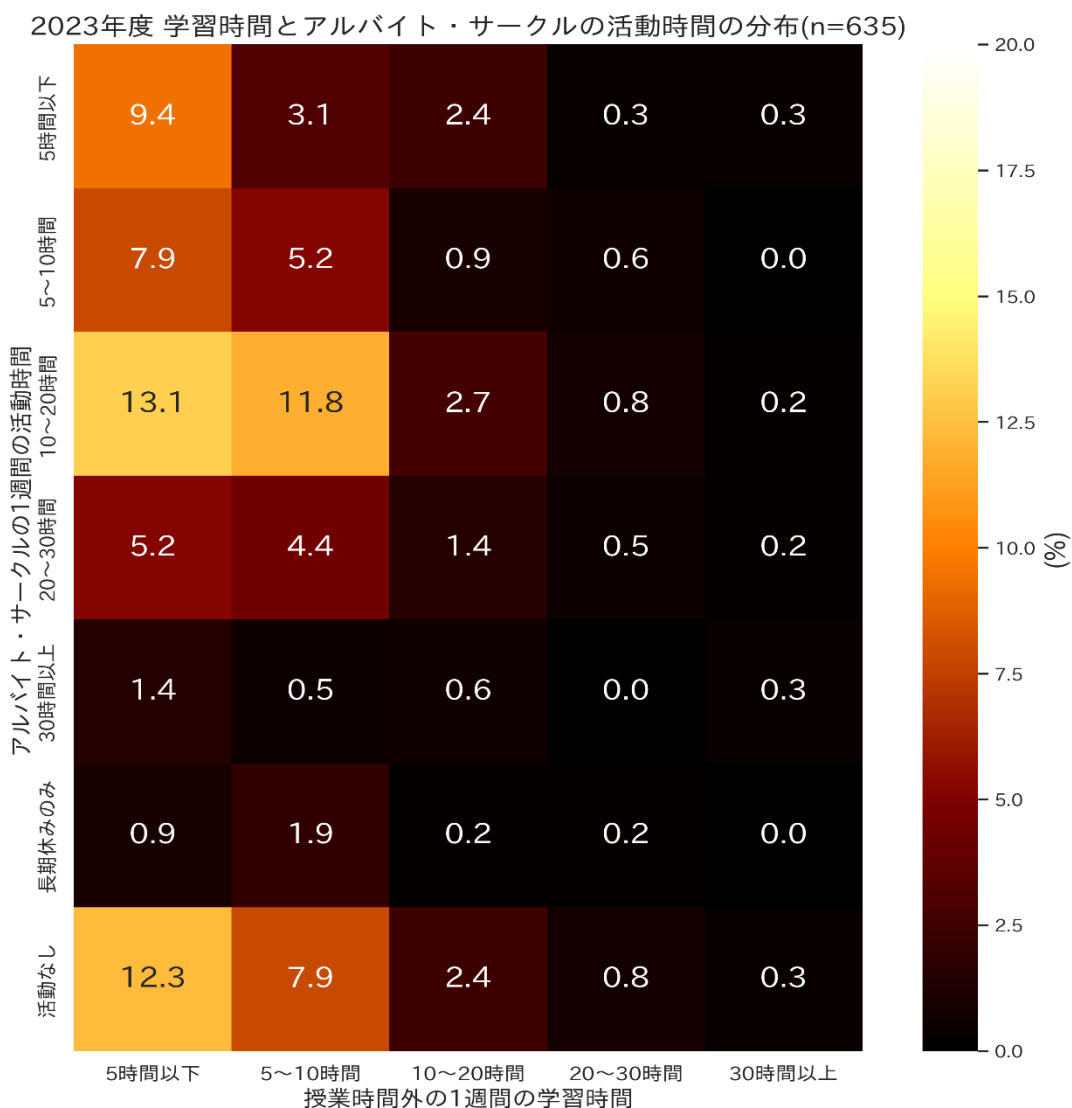


【コメント】

2022年と比較して大きな変化はみられないことから、新型コロナウイルス感染症の影響は限定的か。

※IR分析(②)を併せて参照

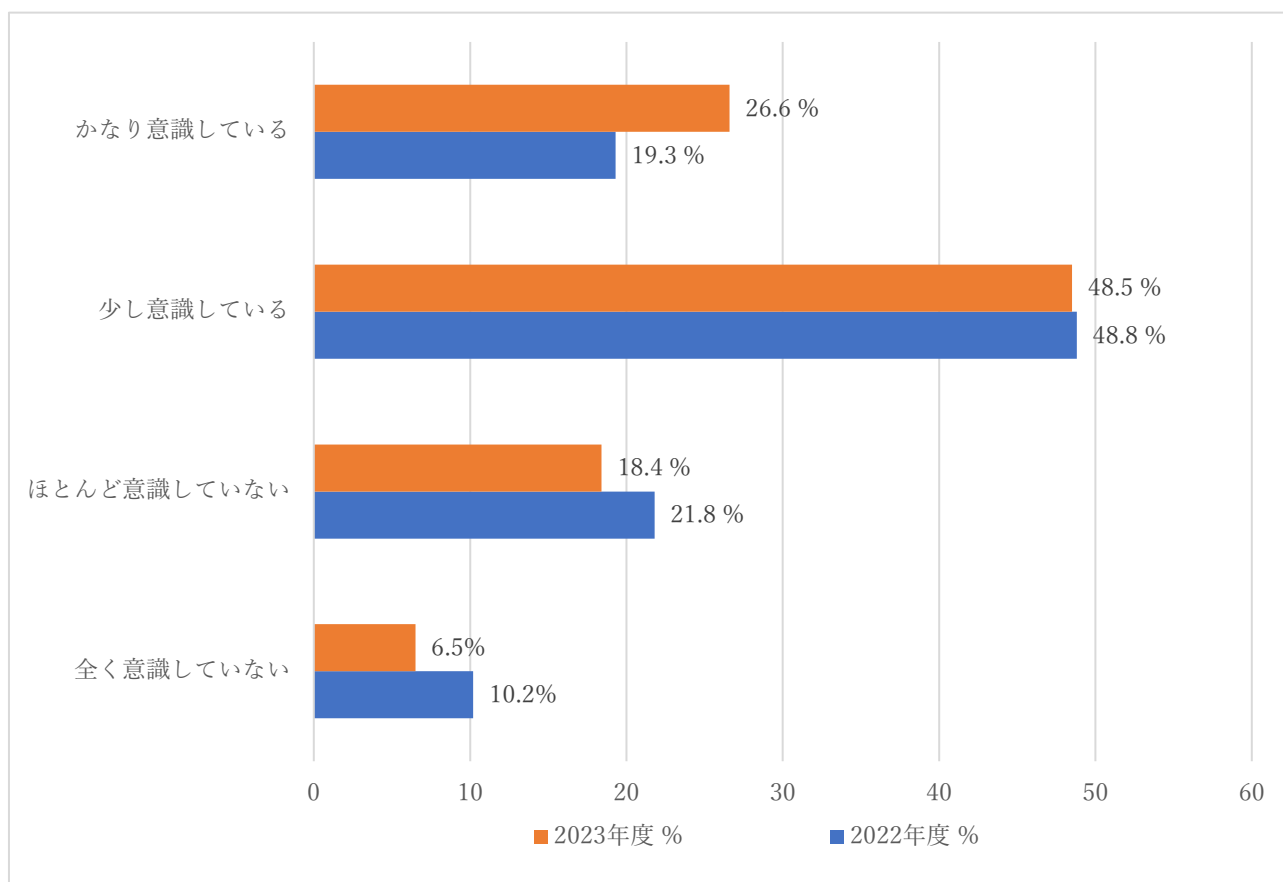
◆IR分析(②)



図②:学習時間とアルバイト・サークルの活動時間の分布

アルバイト・サークルの活動時間でみると「活動なし」と20時間以上に2極化している。
 「活動なし」の学生について、時間的余裕はあると思われるが、学習10時間以下が大勢を占めている。
 学習時間の増加や充実した学生生活を促すため、学生の興味を喚起する講義や大学イベントを提供する。

15. GPA を高くすることを意識して講義に取り組んでいますか

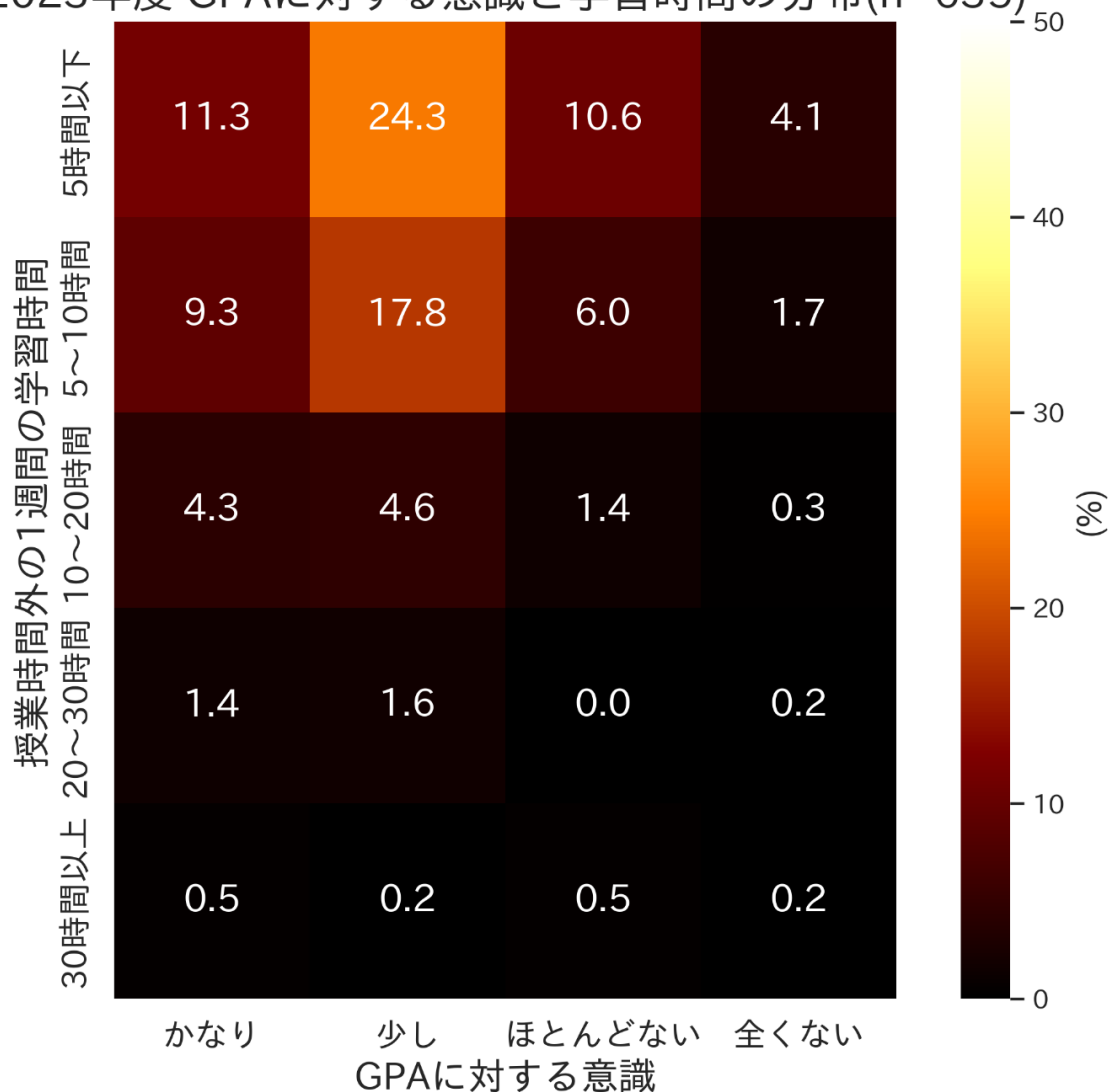


【コメント】

GPAを「少し・かなり意識している」と回答した学生は75.1%となり、学生のモチベーションなどの観点から良い傾向と考える。2022年(68.1%)との比較でも大幅に意識している学生が増えている。

◆IR分析(③)

2023年度 GPAに対する意識と学習時間の分布(n=635)

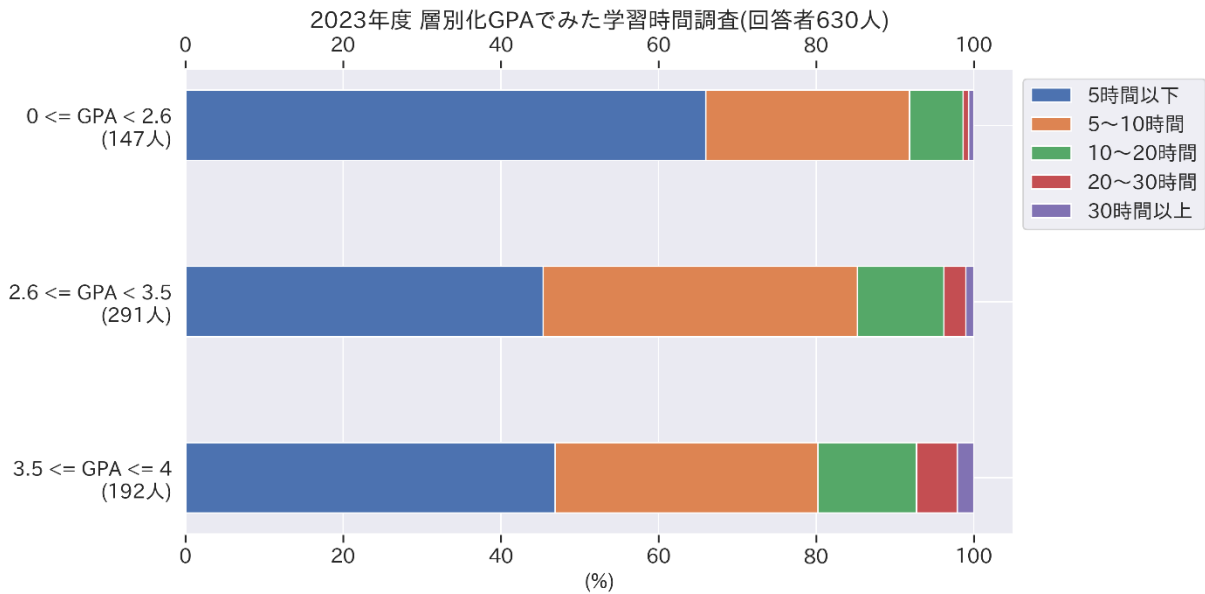


図③:2023 年度 GPA に対する意識と学習時間の分布

GPA に対する意識に依らず、学習時間 5 時間以下が大勢を占める。ゼミ配属や就職活動への GPA 活用を通して、学生にとっての GPA の意義を高める必要がある。それにより、学生の学習時間の増加を期待できる。

◆IR分析(④)

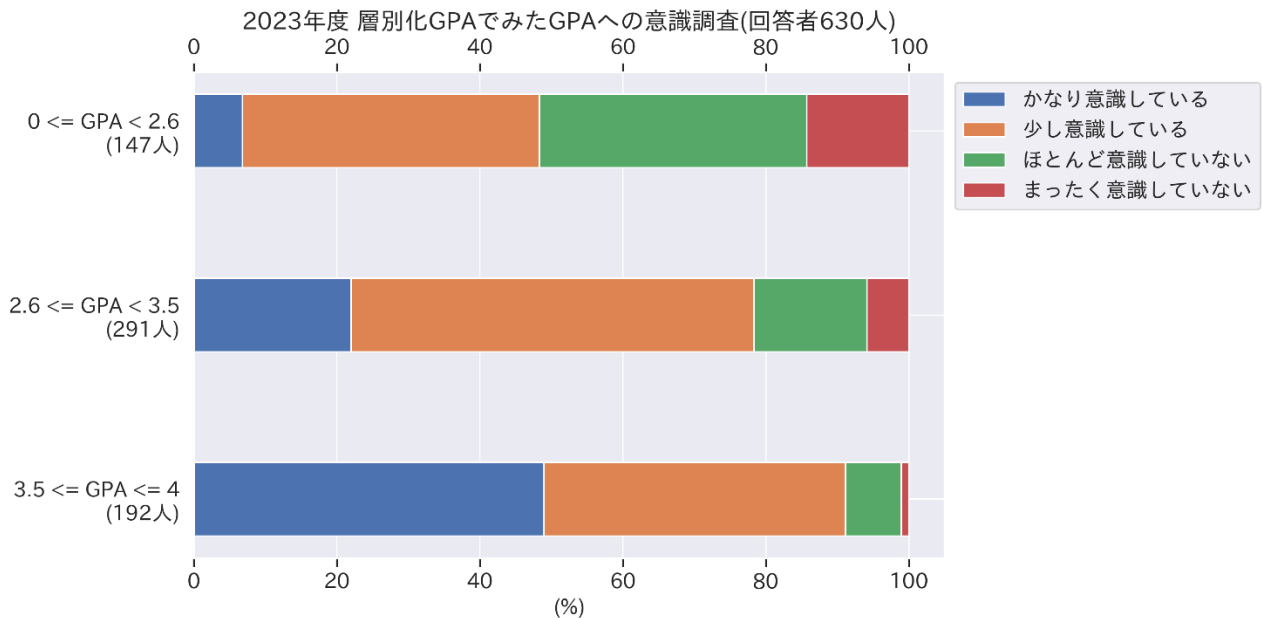
(1)層別化 GPA でみた学習時間に関する分析



GPA が高くなるにつれて、学修時間が長くなる傾向がある。GPA が低い学生の学力向上のためには、学習時間の確保が重要と考えられる。そのために、目標 GPA に対する学習時間の目安を学生に提示し、指導に活用する。GPA が高い学生についても、5 時間以下の学習時間が 40%を超える。

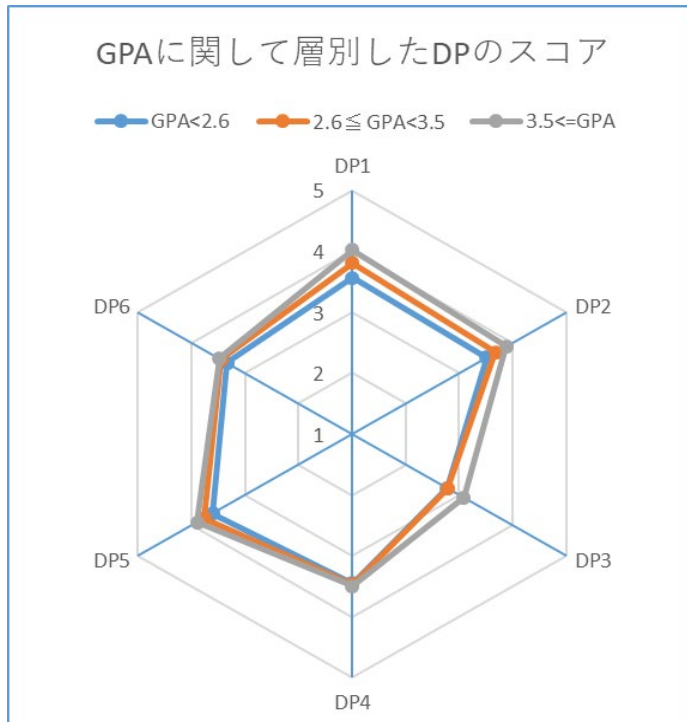
(講義の難易度は適切かを検証する必要がある)

(2)層別 GPA でみた GPA への意識分析



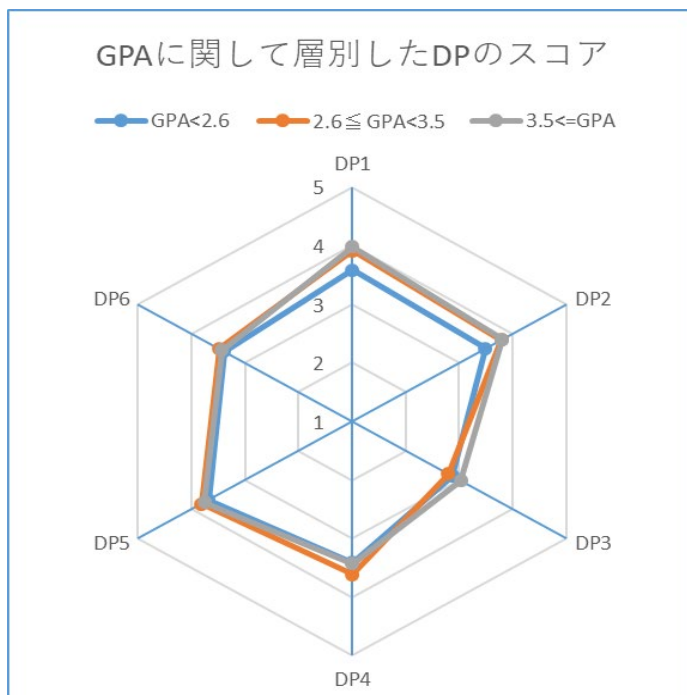
実際の GPA が低い学生ほど、GPA に対する意識が弱いことがわかる。学力向上のために、学生への GPA 周知と意識づけの指導が必要。

◆IR分析(⑤)



2022 年度の結果

	GPA<2.6	2.6≦GPA<3.5	3.5≦GPA
DP1	3.56	3.81	4.02
DP2	3.51	3.68	3.88
DP3	2.78	2.79	3.09
DP4	3.45	3.46	3.50
DP5	3.60	3.77	3.89
DP6	3.33	3.45	3.49



2023 年度の結果

	GPA<2.6	2.6≦GPA<3.5	3.5≦GPA
DP1	3.59	3.91	3.98
DP2	3.49	3.79	3.80
DP3	2.87	2.79	3.03
DP4	3.41	3.61	3.42
DP5	3.68	3.82	3.76
DP6	3.39	3.49	3.44

これらの図と表から下記が読み取れる。

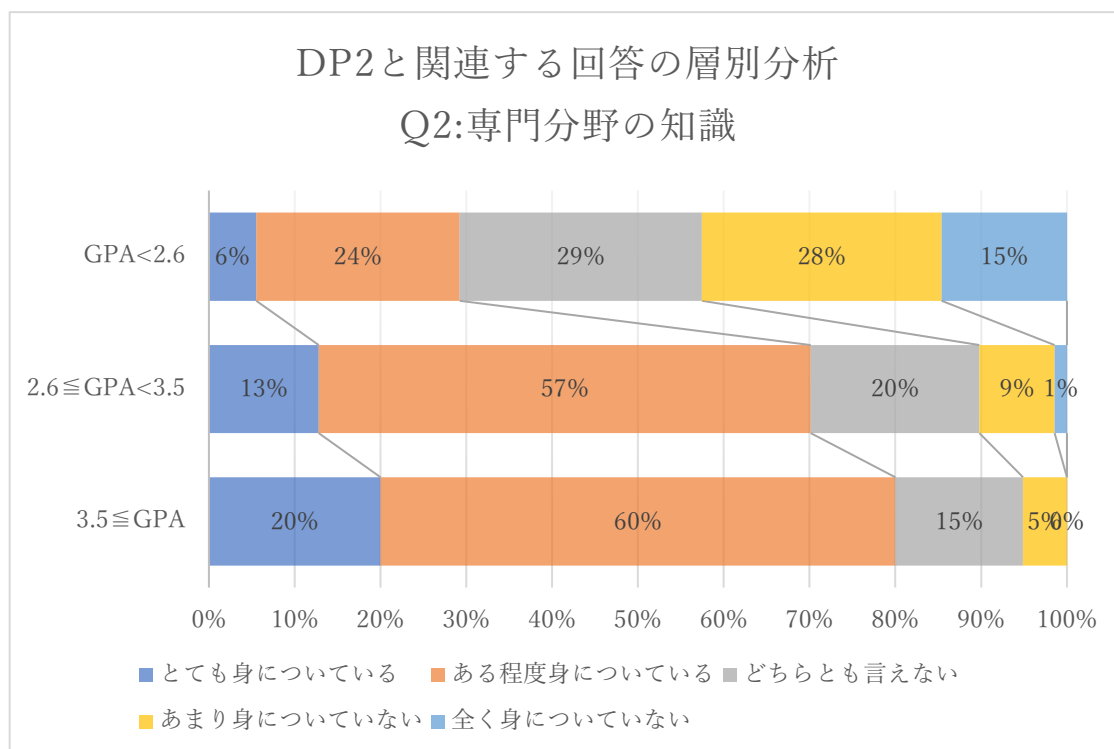
- ・DP1、DP2、DP5 のスコアが高い。これは 2022 年度と同様の結果。
- ・DP3 のスコアが極めて低く、DP4 と DP6 のスコアも低めである。これは 2022 年度と同様の結果。
- ・2022 年度と異なるのは、DP4、DP5、DP6 において、GPA 中位層より上位層のスコアが小さい。DP1 と DP2 についてもほとんど差が無い(2022 年度は GPA が高いほど顕著にスコアが高かった)。

可能性の1つとして、上位層が十分に達成感を感じられない講義内容になっていることが挙げられる。DP4 と DP6に関する科目では、教育効果の数値化とそのフィードバックにより動機付けを行う等の工夫が求められると考える。また、DP3 については抜本的な対策(短期的に効果が見えるものを含む)が必要である。

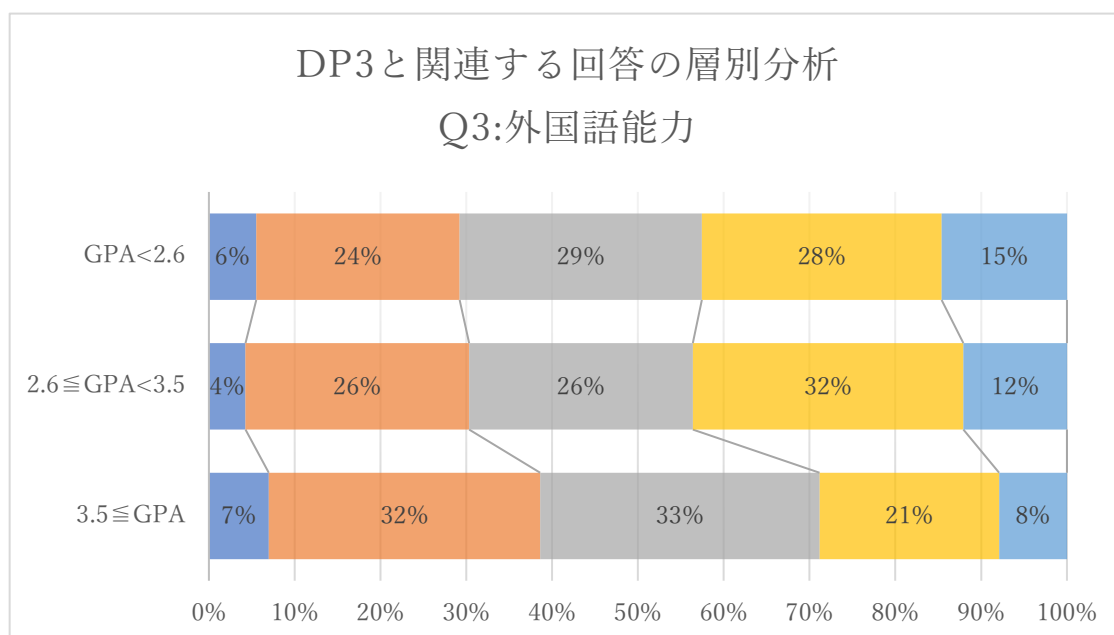
〔補足〕

スコアが高い DP2、低い DP3 について、関連がある Q2 と Q3 の層別回答を示す。

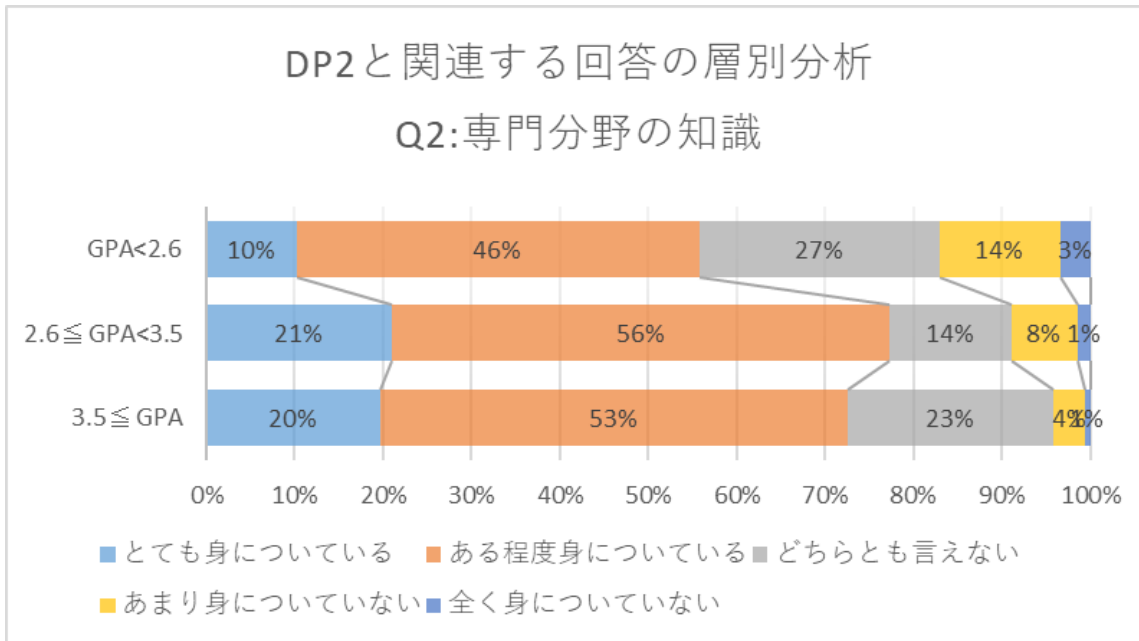
■2022 年度の結果



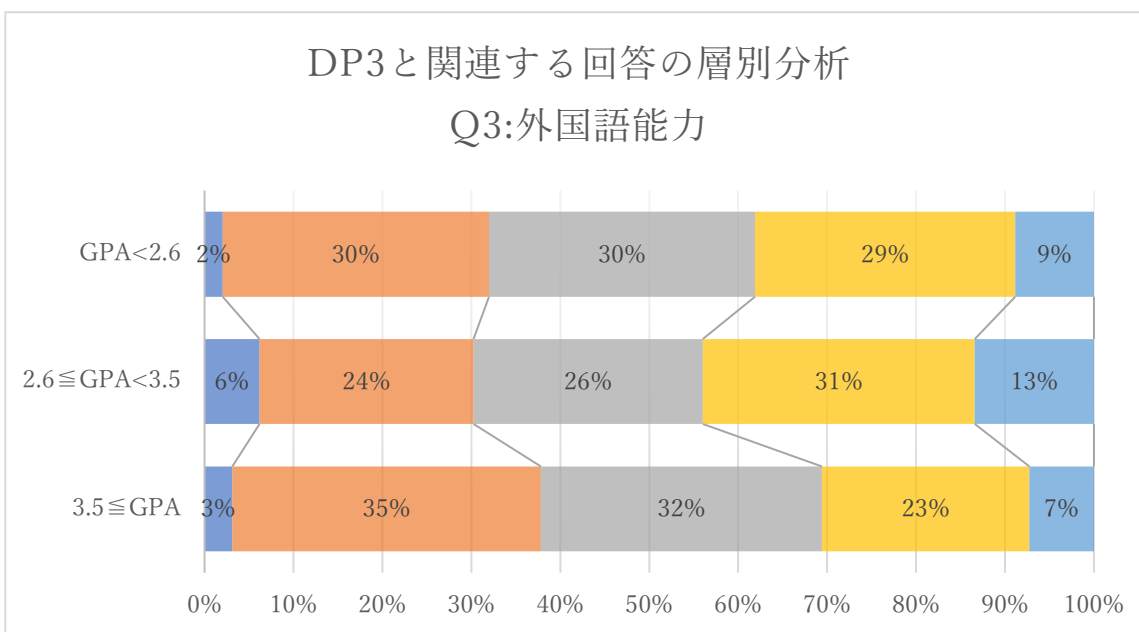
■2022 年度の結果



■2023 年度の結果



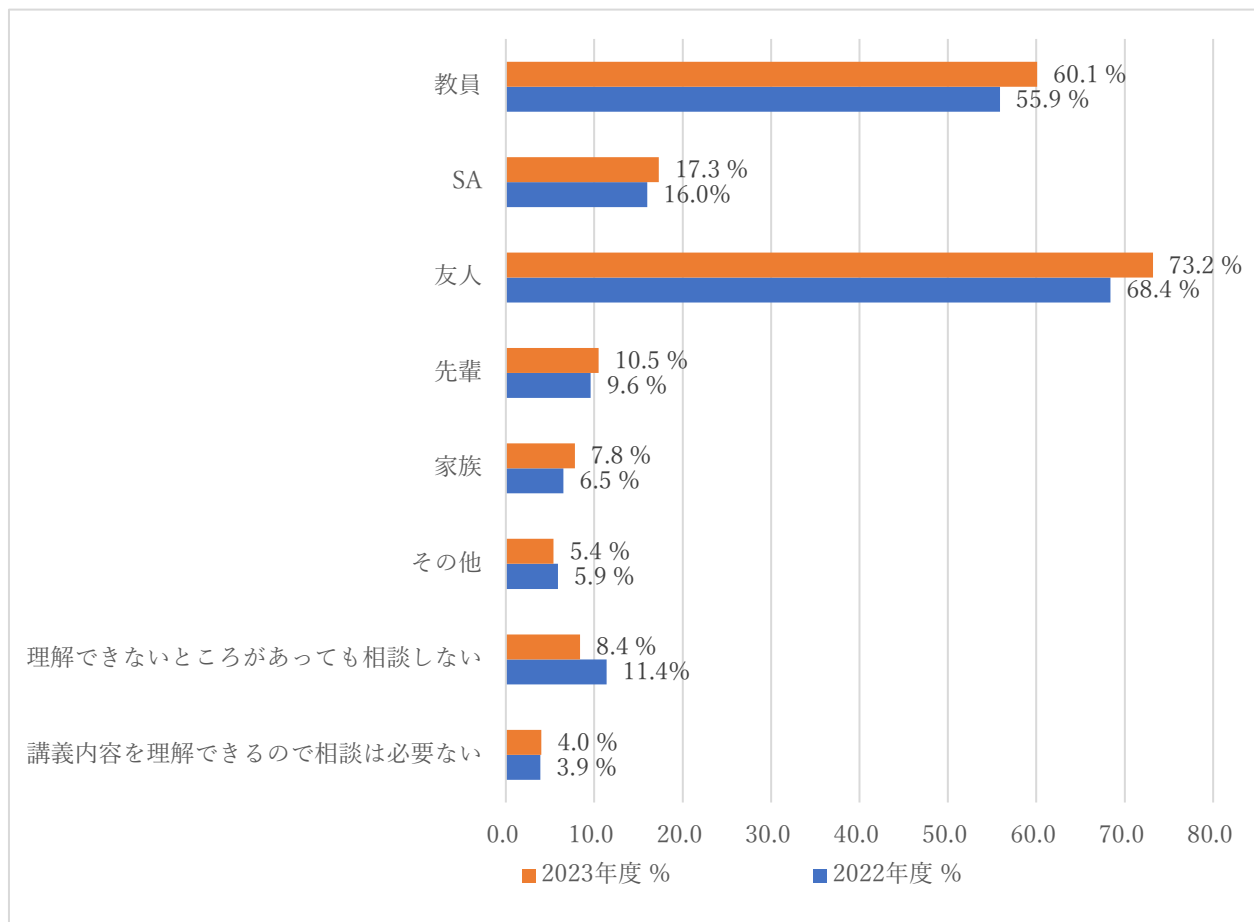
■2023 年度の結果



これらの図から、以下のことが読み取れる。

- Q2 の回答については、2022 年度が GPA の上昇に伴い、顕著に達成度が高いという回答が増えていたのに、2023 年度では、GPA 中位層と上位層の差があまりない。
- Q3 の回答については、2022、2023 年度とも GPA に関わらず達成度が高いという回答が少ない。

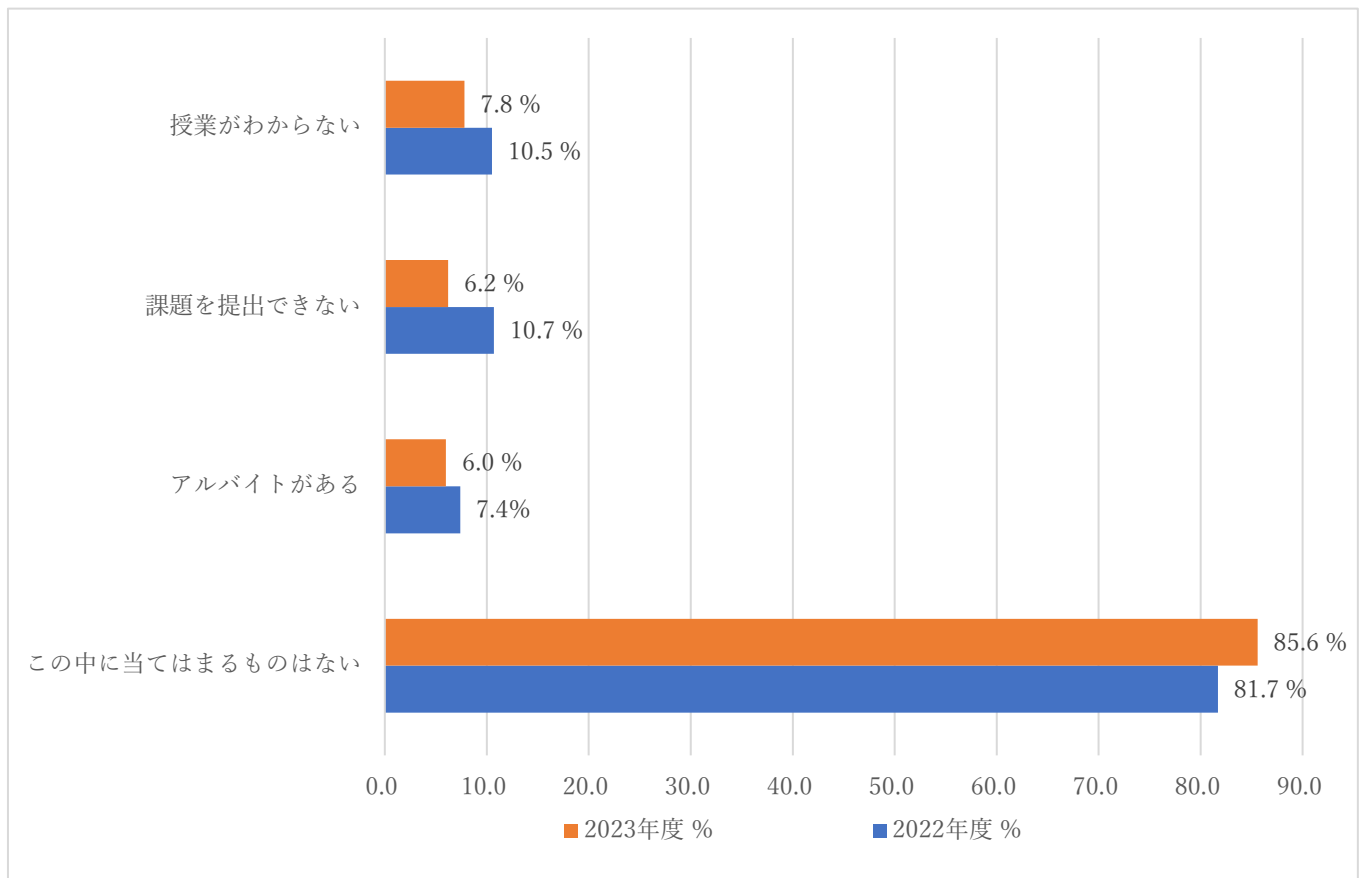
16. 講義で理解できないところがあるとき、誰に相談しますか(複数回答)



【コメント】

友人に相談する学生が最も多く、次いで教員へ相談する学生が多い。『理解できないところがあっても相談しない』の割合が2022年:11.4%から2023年:8.4%と下がっているのは良い傾向である。

17. 授業を休んでしまう理由として、あてはまるものがあれば選んでください(複数回答可能です)



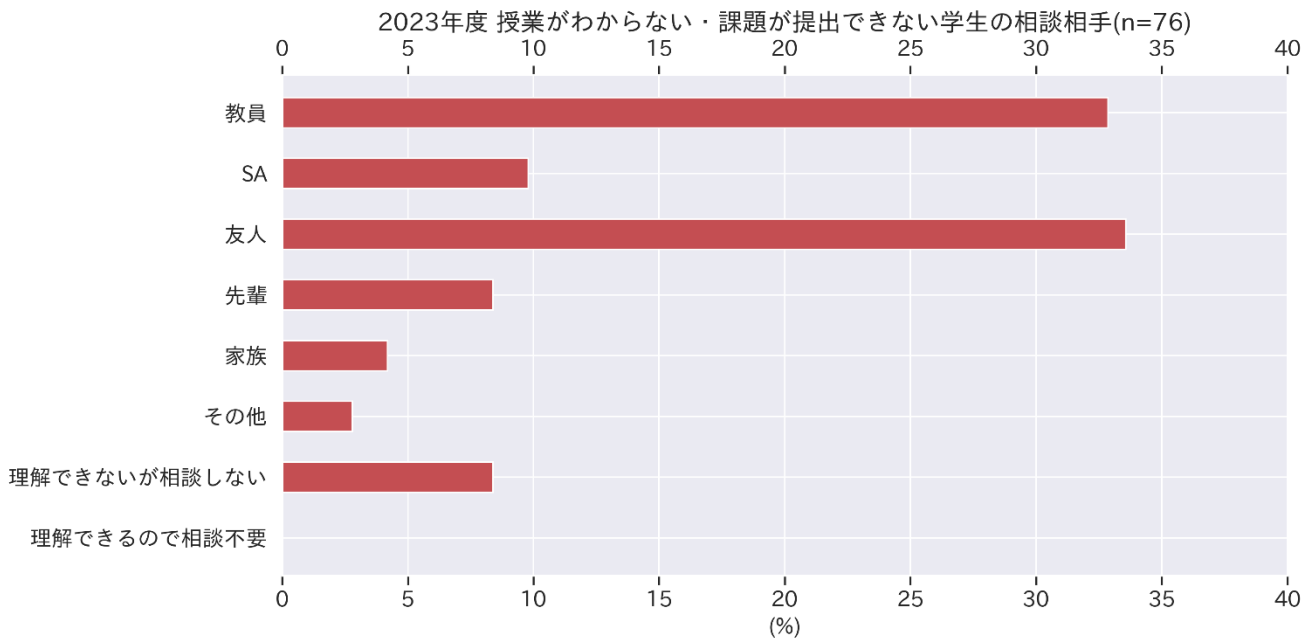
【コメント】

「授業がわからない」、「課題を提出できない」と回答した者は 2022 年:21.2%から 2023 年:14.0%と大幅に減少しており、良い傾向と捉える。

当該設問の選択肢に体調不良・就活事情も加えて、分析を深めたい。なお、設問内容についても次回より『授業を休んでしまう“最も多い”理由』としたい。

◆IR分析(⑥)

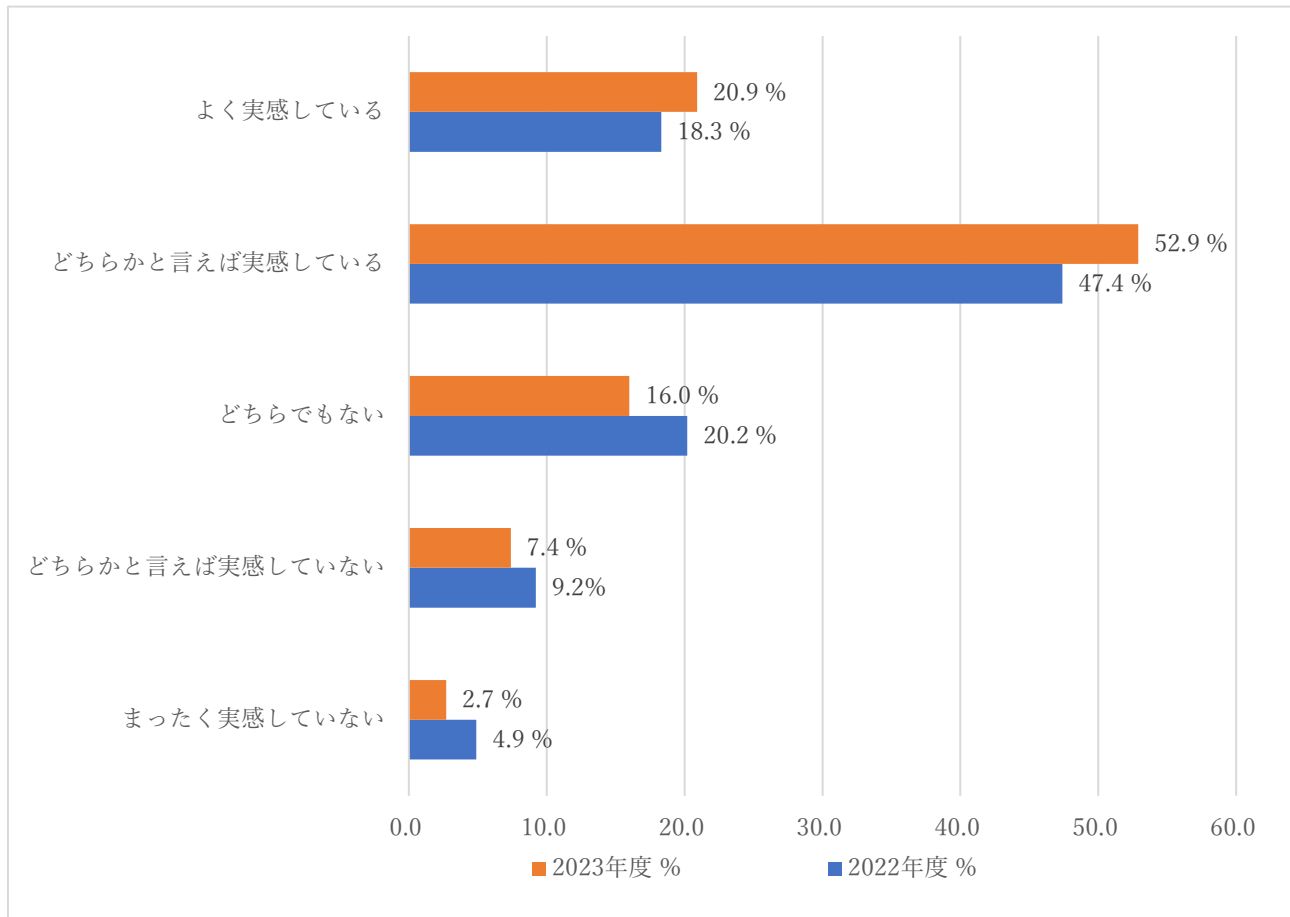
Q17にて「授業がわからない・課題が提出できない」と回答した学生の相談相手に関する分析



「理解できないが相談しない」の割合が比較的高い。相談していても問題解決につながっておらず、学修意欲の低下を引き起こしている可能性がある。学習支援センターや学生チューターのより一層の周知や充実、教員が質問しやすい雰囲気を意識することが必要である。

(相談相手がいる場合に問題を解決できたのか?は設問がないため不明)

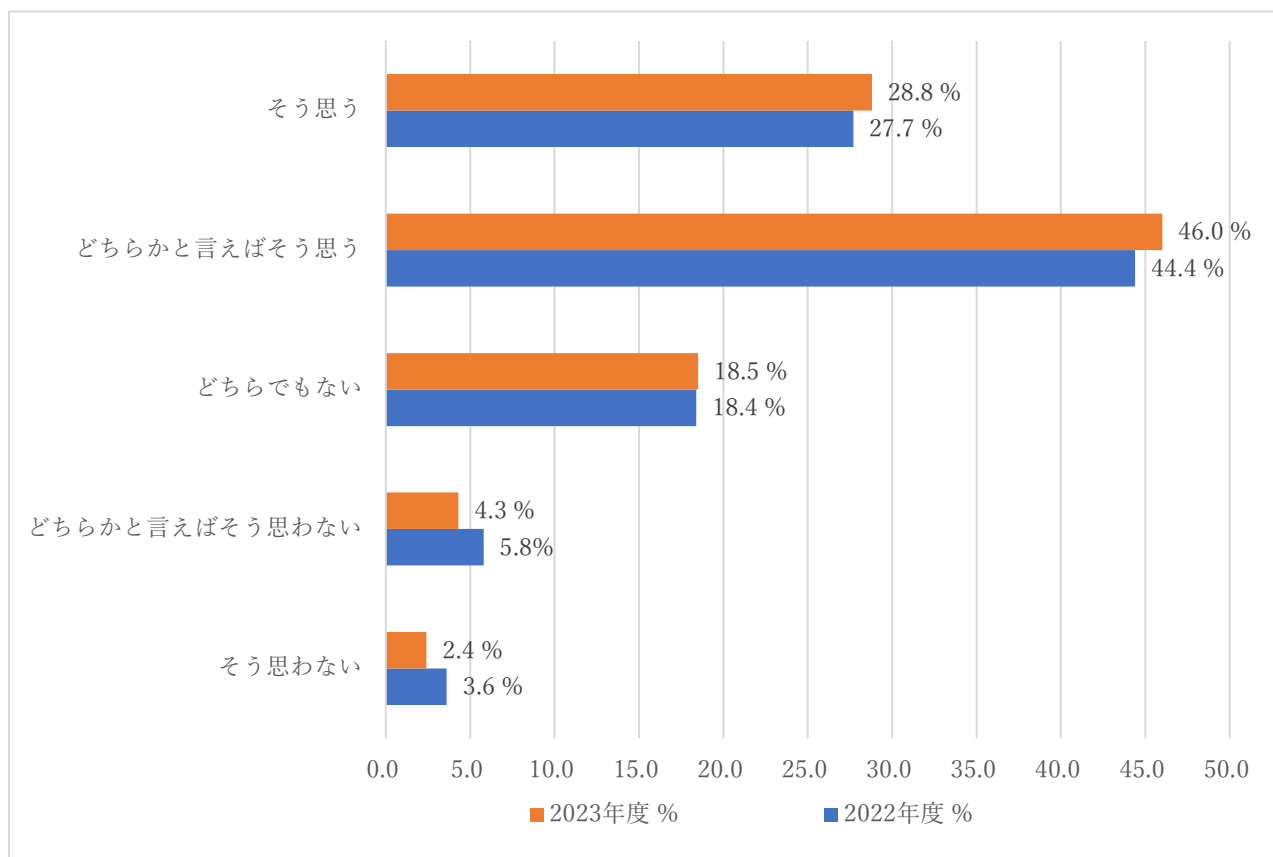
18. 大学での学びによって自分自身の成長を実感していますか



【コメント】

73.8%の学生が「よく実感している、どちらかと言えば実感している」と回答しており、問題ないと判断する。2022年(65.7%)と比較しても大幅に増えているが、『何を以てして成長を実感しているか』の分析に繋げて、今後の授業・大学運営に役立てたい。

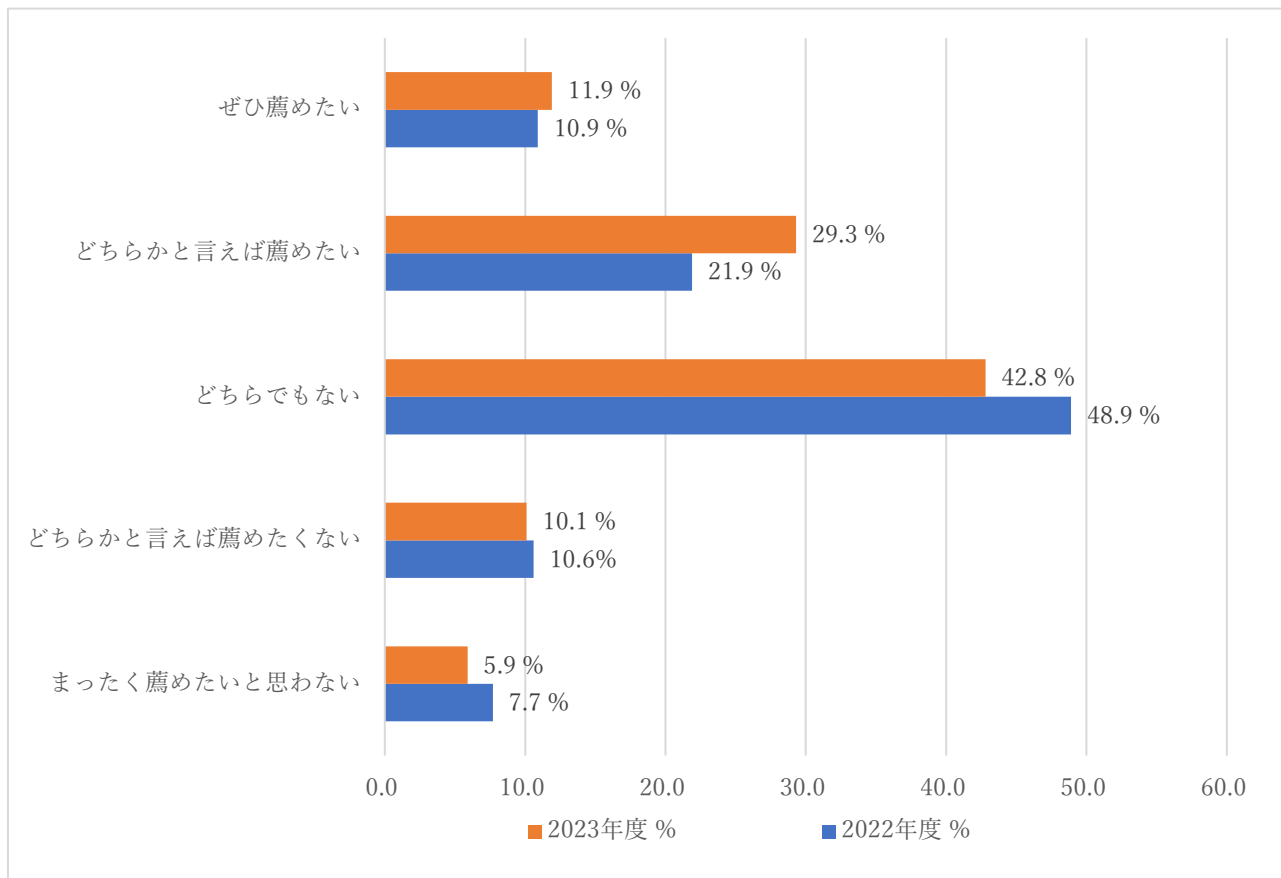
19. 教員が学生と向き合って教育に取り組んでいると思いますか



【コメント】

74.8%の学生が「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答しており、教員の教育への取り組みについては問題ない。2022年(72.1%)との比較でも大きな変化は見受けられない。

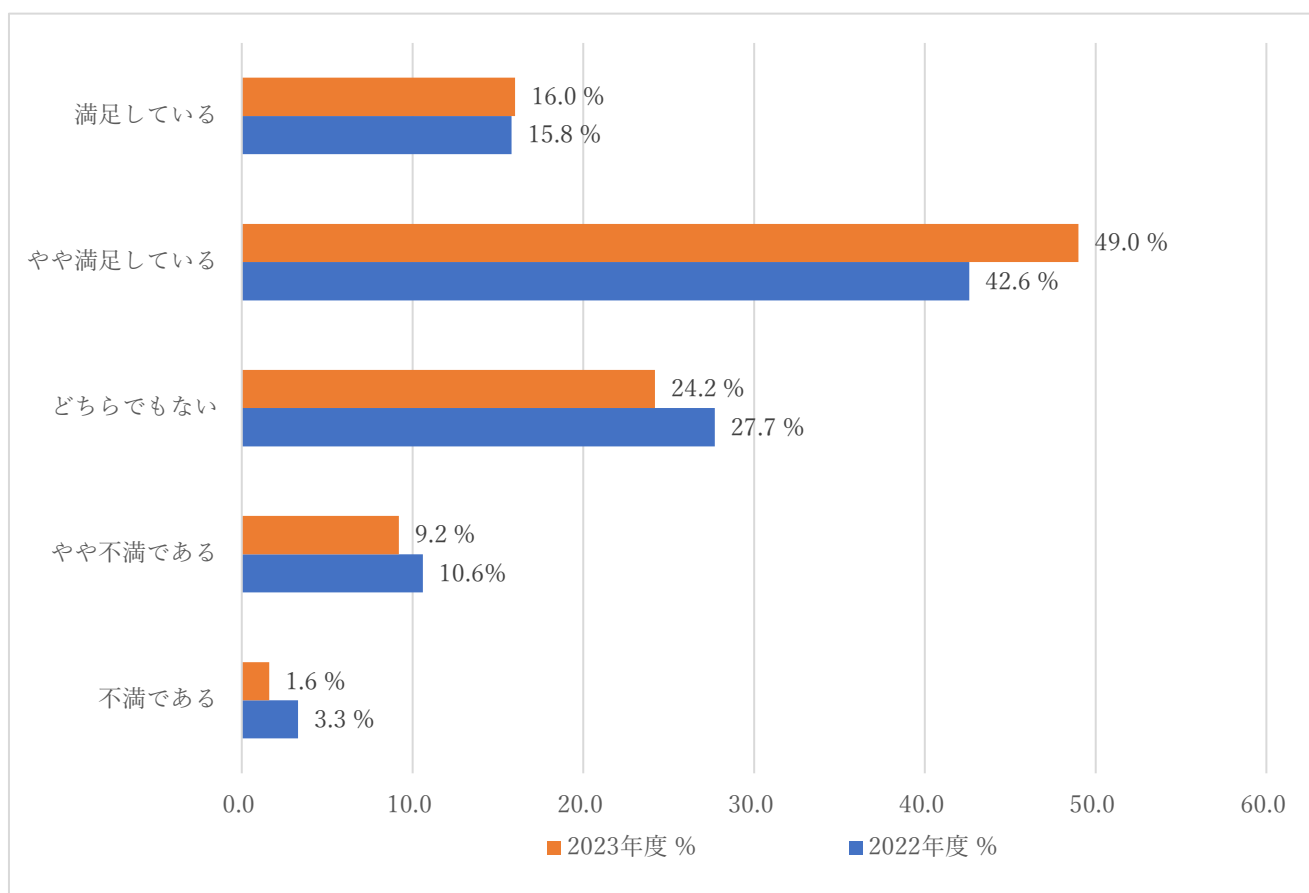
20. 北海道情報大学を出身校の生徒や教諭に薦めたいですか



【コメント】

「どちらでもない」「どちらかと言えば・まったく薦めたいと思わない」とした学生が58.8%と多い。2022年(67.2%)と比べ改善されてきているものの、学生自由記述の分析を進め、本学を出身校の生徒や教諭に薦めたいと思えるような教育内容の充実および学修環境や学内の設備を整える必要がある。

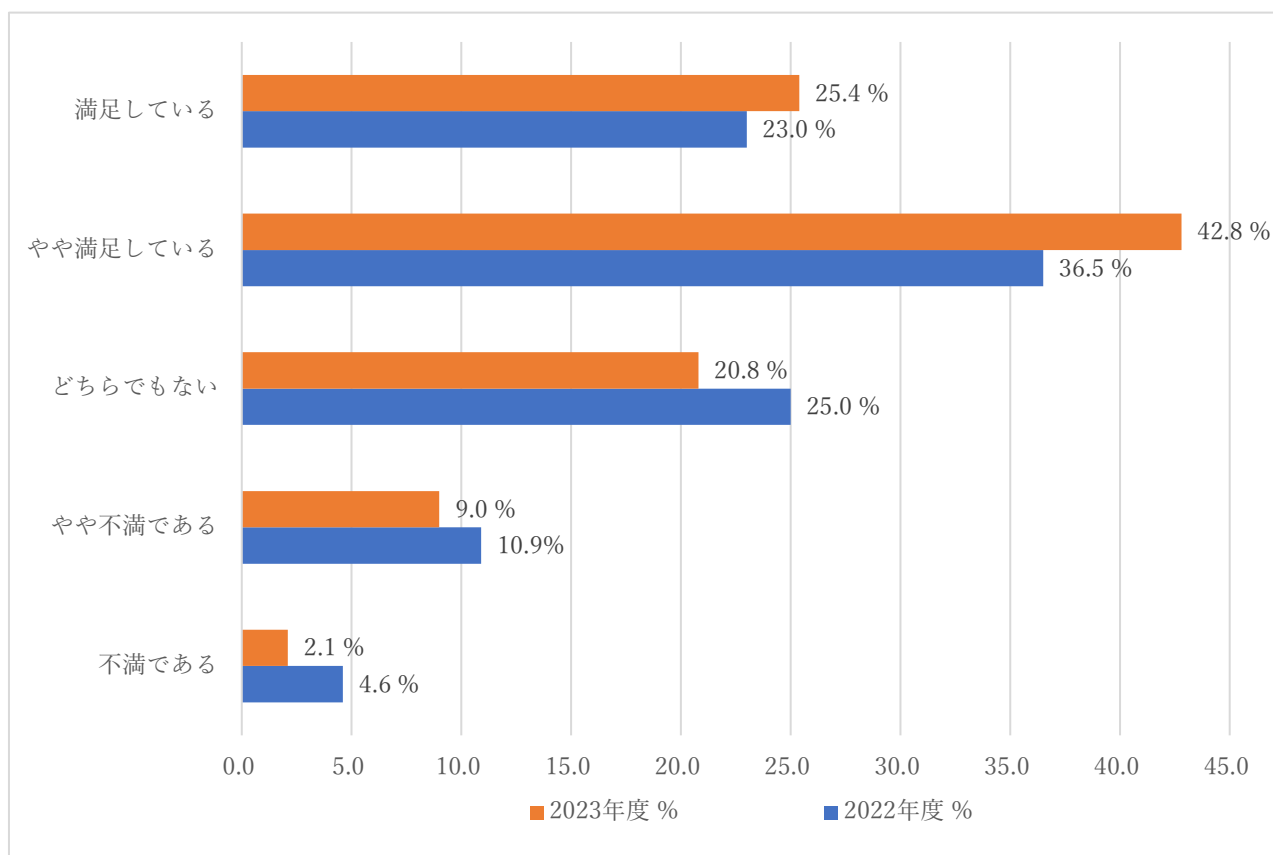
21. カリキュラム(教育内容)に満足していますか



【コメント】

「満足・やや満足している」が65.0%である。2022年(58.4%)から改善されている。

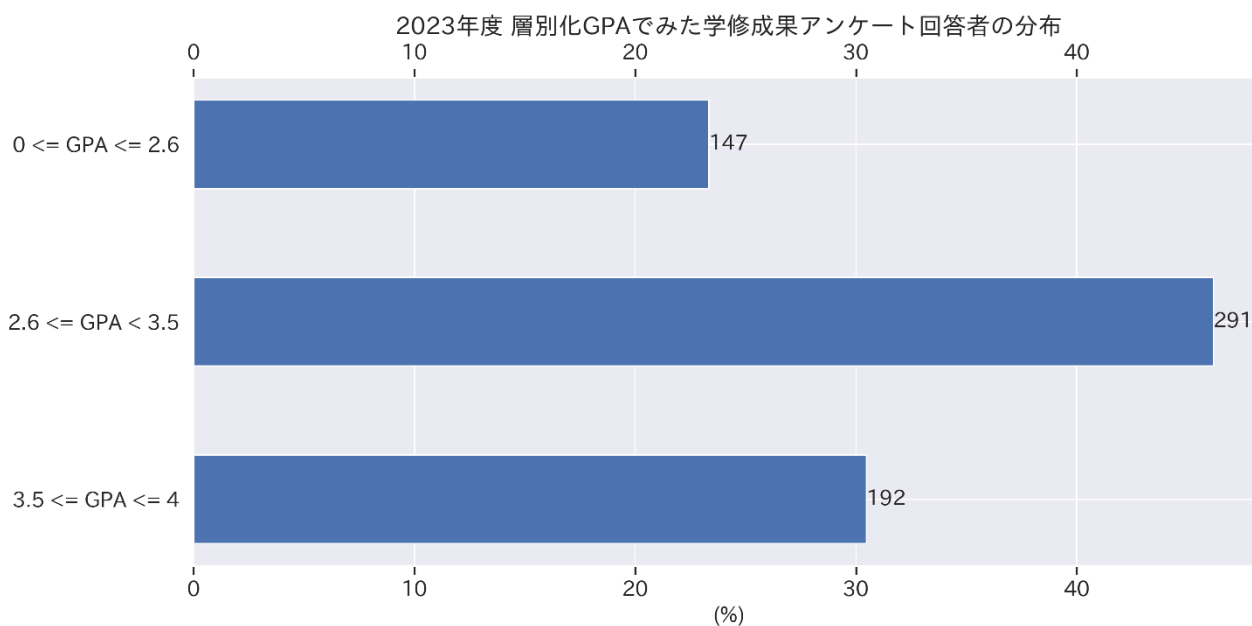
22. 大学に満足していますか



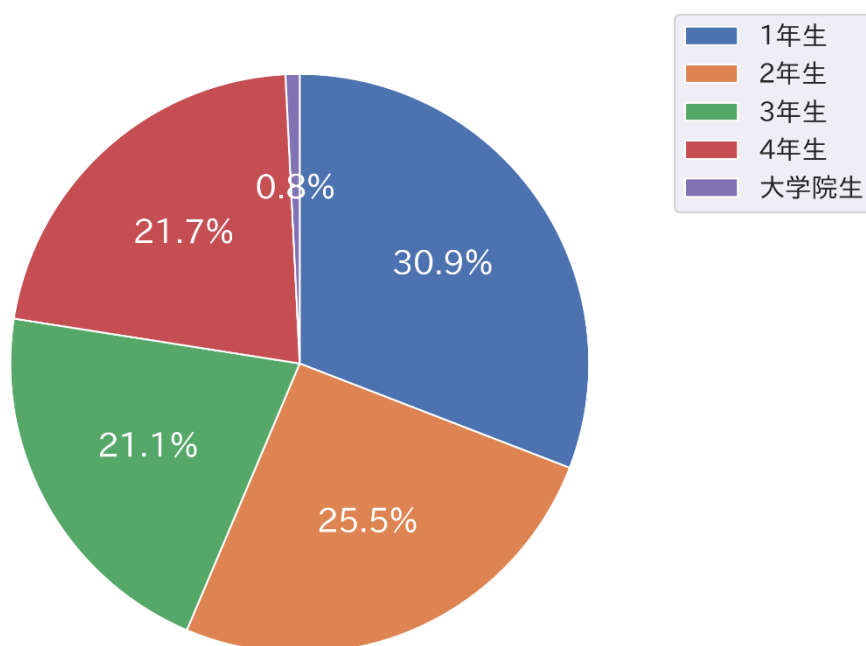
【コメント】

68.2%の学生が満足していると答えている一方、不満がある学生は合計で11.1%いる。
2022年(満足:59.5%、不満:15.5%)から改善されている。

◆IR分析(⑦)



2023年度 回答者における学年の割合(n=635)



学年が上がるにつれて、回答者の割合は減少傾向。毎年アンケートを実施する意義を学生に周知する必要がある。

※学年は GPA データファイル_20230905.csv に記録されており、アンケートと対応づけ可能な学生数は 635 名。

4. 提言まとめ

(1) 教職員

- ① 外国語教育(特に英語)の見直しを行い、学生にとって能力が身についたと感ぜられるように必修・選択等の授業形態と授業内容の抜本的な改善を図る。(昨年同様)
- ② 授業レベルに不満を持つ学生が出始めているため、上位層学生への対策を検討する必要がある。
- ③ 学生とともに教職員は大学でのイベントを実施し有意義な学生生活に繋げる。(昨年同様)
- ④ 友人との相談や助け合いに繋がる友人関係の構築を促すように教職員は配慮する。(昨年同様)
- ⑤ 学習支援センターや学生チューターの活用を学生に周知する。質問しやすい雰囲気を意識した授業を教員は検討する。(昨年同様)
- ⑥ 時間割(教務課)とカリキュラム構成(教務委員会)について、学生配慮を踏まえて再検討を行う。
- ⑦ など

(2) その他(設備など)

- ① 自習する学生が増えれば、友人同士での助け合い、友人に感化されて自習する学生の増加、友人関係の構築に貢献できる。(昨年同様)
- ② セキュリティと利便性のバランスについて可能な限り再検討が必要か。
- ③ 昨年もバス関連の要望が多かったが、今年は学食に関する要望が増えている。
- ④ 新設された空調設備の適切な使用について教員へ周知する。
- ⑤ 学内ネットワーク(WiFi)の更なる充実検討。
- ⑥ など